

概要

- 国として、**全国共通の質問項目**により、**学生目線から**大学教育や学びの実態を把握するための調査を実施。
- 大学・短期大学の学生を対象に、**大学での学習内容や経験、大学教育を通じて身に付いた知識・能力、大学での学びに関する意識等**について調査。調査結果は**各大学の教育改善、社会の大学教育に対する理解促進、国の政策立案の基礎資料**として活用。
- 令和元、3、4、6年度と4回の試行実施を行い、**今後、調査方法・質問項目等の調査設計を固め、令和7年度以降に本格実施**。

背景

- **学生がどのような能力を身に付けているかについて、社会に対する説明や情報公表が不十分**との指摘。
- 各大学が教育成果等の教育の質に関する情報を把握・公表していくこと、社会が理解しやすいよう、**国は全国的な学生調査等を通じて整理し、比較できるように一覧化して公表すべき**との提言。（平成30年11月中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」）

目的

- **各大学**が、フィードバックされた調査結果をIRやFD・SD活動、自己点検・評価等に活用し、自大学の教育改善を促進する
- **大学進学希望者やその保護者、地域社会や産業界、海外の留学関係者等**が、学生の学修成果や大学全体の教育成果に対する理解を深める
- **国**が、今後の政策立案に際しての基礎資料として活用する
- **学生一人一人**が、振り返りにより今後の学修や大学生活をより充実させ、卒業後の社会における自らの姿を考える契機とする

令和6年度（第4回試行実施）概要

【調査対象】

- 大学2年生及び最終学年生 短期大学最終学年生
- 参加意向のあった大学540校、短期大学132校

【調査方法】 以下のいずれか

- ① インターネット（WEB）調査
- ② 参加大学が実施する学生調査（大学独自の学生調査の中に本調査の質問項目を設定）

【調査時期】

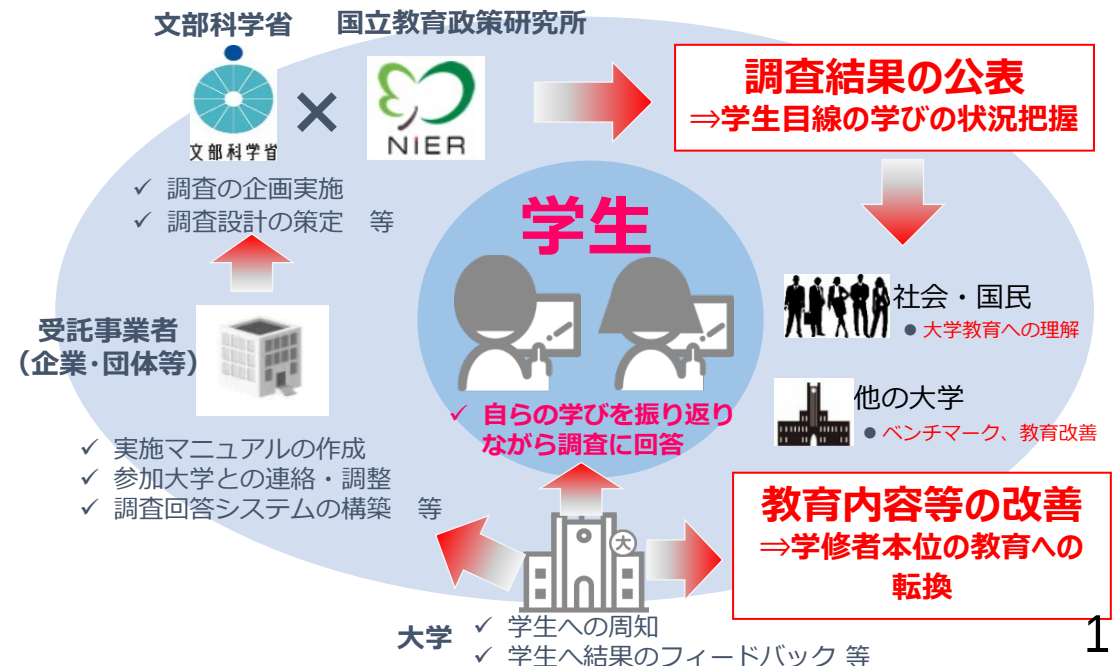
- 令和6年10月28日～令和7年3月7日（このうち、各大学において1か月程度の期間設定を推奨）

【調査項目】

- 大学での学習内容や経験、大学教育を通じて身に付いた知識・能力、大学での学びに関する意識、一週間の生活時間 等（選択式33問・記述式1問）

【調査結果】

- 全体の調査集計・分析結果（個別大学の結果は非公表）や各質問項目の上位校（ポジティブリスト）を公表
- 参加大学には自大学の調査結果を教学IRとしてフィードバック





令和7年9月30日

令和6年度（2024年度）「全国学生調査（第4回試行実施）」の結果について

文部科学省では、中央教育審議会答申で提言された全国的な学生調査の実施について、令和6年（2024年）10月28日（月）～令和7年（2025年）3月7日（金）の間、国立教育政策研究所と共同で、全国の大学生を対象とした大規模なアンケート調査を試行実施し、13万人を超える多くの学生から回答をいただきました。
今般、その結果を取りまとめましたので公表します。

1. 趣旨目的

「全国学生調査」は、「学修者本位の教育への転換」を目指す取組の一環として、全国共通の質問項目により、学生目線から大学教育や学びの実態を把握し、大学の教育改善や国の政策立案など、大学・国の双方において様々な用途に活用することを目的としている。

本調査は、令和元年度（2019年度）の第1回、令和3年度（2021年度）の第2回、令和4年度（2022年度）の第3回試行実施に引き続き、適切な調査方法や質問項目などを整理・検証するため、試行という位置付けで実施したものである。

2. 調査内容

（1）調査対象

試行実施に参加意向のあった540大学^{※1}に在籍する学部2年生（約49万人）及び4年生等^{※2}（約51万人）、並びに参加意向のあった短期大学132校^{※1}に在籍する2年生以上^{※2}（約1.8万人）。

^{※1} 試行実施では、調査方法や質問項目などを整理・検証し、全国学生調査の制度設計の確立を目的とすることから、全大学（787大学）に対して試行実施へ参加協力の可否等について意向確認を実施し、68.6%の大学から参加意向の回答があった。同様に全短期大学（297校）にも意向確認を実施し、44.4%の短期大学から参加意向の回答があった。

^{※2} 各大学・短期大学の標準修業年限における最終学年の学生を対象とした。

（2）調査方法

参加校が以下の調査方法①～②から選択

①文部科学省が実施するインターネット（WEB）調査（文部科学省が指定するURLに学生が直接回答）

②参加校が実施する学生調査（参加校独自の学生調査の中に本調査の質問項目を設定）

(3) 質問項目

大学で受けた授業の状況、大学での経験とその有用さ、大学教育を通じて知識や能力が身に付いたか、平均的な1週間の生活時間等、全33問
(その他、自由記述(任意)1問)

3. 回答状況

(1) 全体の回答状況

対象	対象校数	対象学部数 ※短大においては 学科数	対象学生数 ※短大においては最終学年のみ		有効回答者数 ※短大においては最終学年のみ		回答率
			2年生	4年生以上	2年生	4年生以上	合計
大学	540校	2,324学部※2	489,378	513,163	69,030 (14.1%)	62,277 (12.1%)	13.1%
うち基準※1 合致	304校 (56.3%)	811学部※2 (34.9%)	215,198 (44.0%)	224,119 (43.7%)	56,351 (81.6%)	51,085 (82.0%)	24.5%
短期大学	132校	248学科	17,647		6,713		38.0%
うち基準※1 合致	61校 (46.2%)	106学科 (42.7%)	6,789 (38.5%)		5,252 (78.2%)		77.4%
合計	672校	2,572 学部・学科※2	1,020,188		138,020		13.5%
うち基準※1 合致	365校 (54.3%)	917学部 ・学科※2 (35.7%)	466,106 (45.7%)		112,688 (81.6%)		24.2%
(参考：第3回試行実施結果)							
大 学	532校	2,083学部	462,252	488,595	51,502 (11.1%)	49,570 (10.1%)	10.6%
うち基準※1 合致	279校 (52.4%)	660学部 (31.7%)	201,323 (43.6%)	216,481 (44.3%)	37,708 (73.2%)	36,757 (74.2%)	17.8%
短期大学	148校	294学科	24,376		6,805		27.9%
うち基準※1 合致	60校 (40.5%)	93学科 (31.6%)	7,502 (30.8%)		4,758 (69.9%)		63.4%
合計	680校	2,377 学部・学科	975,223		107,877		11.1%
うち基準※1 合致	339校 (49.9%)	753学部 ・学科 (31.7%)	425,306 (43.6%)		79,223 (73.4%)		18.6%

※1 学部単位で「対象学生数が、①60人以上80人未満のとき、有効回答者数30人以上、②80人以上200人未満のとき、有効回答者数40人以上、③200人以上600人未満のとき、有効回答者数50人以上、④600人以上のとき、有効回答者数60人以上、⑤60人未満のとき、有効回答率50%以上」を集計基準として設定。

※2 学部の中に複数の分野が含まれる場合は、それぞれの分野を重複して計上

<集計基準について>

本調査の集計基準は、各大学・短期大学の学部・学科の回答としての代表性が損なわれないよう設定したものである。そのため、全体・設置者別・学年別の回答状況については学生から得られた全ての回答を集計に含めることとした。一方で、学部規模別・学部分野別の回答状況については、集計基準に合致した学部・学科の回答のみを集計した。（全体の回答状況以外のデータについては別添の資料編に示す。）

※本基準は、学部・学科の規模が60人未満の場合、50%の有効回答率を必要としたため、小規模の学部・学科が基準を満たせず、別添資料編に示したデータについてはこうした学部・学科の特徴が反映されていない可能性がある。

（２）大学の回答状況

<設置者※別の回答状況>

区分	対象大学数	対象学部数	対象学生数	有効回答者数	有効回答率
国立	82大学	504学部	214,891人	32,572人	15.2%
公立	70大学	206学部	56,920人	8,860人	15.6%
私立	388大学	1,614学部	730,730人	89,875人	12.3%

※人数については、学部2年生と最終学年の在籍者数の合計

<大学規模※別の回答状況>

大学規模	対象大学数	対象学生数	有効回答者数	有効回答率
2,000人以上	161校	733,605人	78,239人	10.7%
2,000人未満 1,000人以上	96校	137,408人	23,296人	17.0%
1,000人未満 500人以上	112校	81,118人	16,079人	19.8%
500人未満	171校	50,410人	13,693人	27.2%

※人数については、学部2年生と最終学年の在籍者数の合計

<学部規模※別の回答状況>

学部規模	対象学部数	対象学生数	有効回答者数	有効回答率
800人以上	298学部	394,193人	33,056人	8.4%
800人未満 400人以上	576学部	326,802人	44,787人	13.7%
400人未満	1,450学部	281,546人	53,464人	19.0%

※人数については、学部2年生と最終学年の在籍者数の合計

<有効回答率別の大学数・学部数>

有効回答率	対象大学数
80%以上	22大学
60%以上80%未満	25大学
40%以上60%未満	37大学
20%以上40%未満	101大学
10%以上20%未満	133大学
10%未満	222大学

有効回答率	対象学部数
80%以上	78学部
60%以上80%未満	70学部
40%以上60%未満	130学部
20%以上40%未満	362学部
10%以上20%未満	437学部
10%未満	1,247学部

（３） 短期大学の回答状況

<設置者※別の回答状況>

区分	対象校数	対象学科数	対象学生数	有効回答者数	有効回答率
国立	—	—	—	—	—
公立	9校	22学科	1,676人	399人	23.8%
私立	123校	226学科	15,971人	6,314人	39.5%

※人数については、最終学年の在籍者数の合計

<短期大学規模※別の回答状況>

短大規模	対象校数	対象学生数	有効回答者数	有効回答率
400人以上	4校	1,790人	583人	32.6%
400人未満 200人以上	18校	4,217人	1,118人	26.5%
200人未満 100人以上	58校	8,202人	3,456人	42.1%
100人未満	52校	3,438人	1,556人	45.3%

※人数については、最終学年の在籍者数の合計

※短期大学においては、規模が小さく、有効回答者数が少ないことから、短期大学規模別のみ作成した。

<有効回答率別の短期大学数>

有効回答率	対象校数
80%以上	27校
60%以上80%未満	19校
40%以上60%未満	15校
20%以上40%未満	20校
20%未満	51校

(4) 調査方法別の回答状況

対象	調査方法	対象校数	対象学部数 ※短大においては 学科数	対象学生数 ※短大においては最終学年のみ		有効回答者数 ※短大においては最終学年のみ		回答率
				2年生	4年生以上	2年生	4年生以上	合計
大学	①	486校	2,078学部	445,424	466,743	53,776 (12.1%)	46,021 (9.9%)	10.9%
	②	54校	246学部	43,954	46,420	15,254 (34.7%)	16,256 (35.0%)	34.9%
短期大学	①	120校	220学科	15,714		5,407		34.4%
	②	12校	28学科	1,933		1,306		67.6%

※調査方法①：文部科学省が実施するインターネット（WEB）調査（文部科学省が指定するURLに学生が直接回答）

調査方法②：参加大学が実施する学生調査（大学独自の学生調査の中に本調査の質問項目を設定）

4. 質問項目ごとの回答内容

＜各質問項目の回答選択割合＞

（注１）回答選択の実数については、別添「令和６年度「全国学生調査（第４回試行実施）」結果【資料編】」（以下、本資料において「別添資料編」と記載）参照

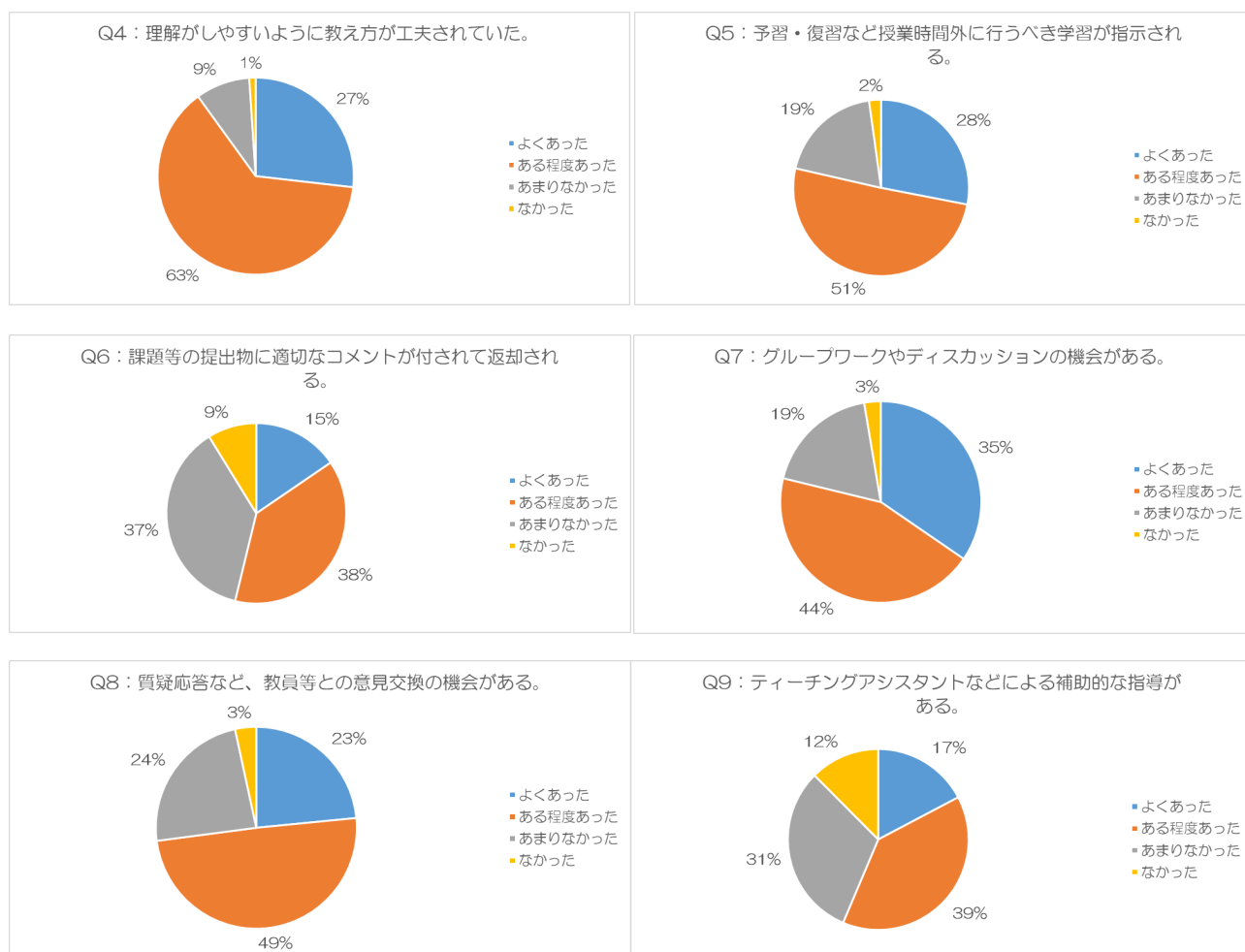
（注２）各回答の割合は、小数点第三位で四捨五入した上でパーセント表示しており、複数の回答の割合を合算した数値は、各回答のパーセント表示の和と必ずしも一致しない。

【大学】

問１ 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

理解がしやすいような教え方の工夫（90%）、授業時間外に行うべき学習の指示（79%）等については、「よくあった」、「ある程度あった」という割合が高かった。

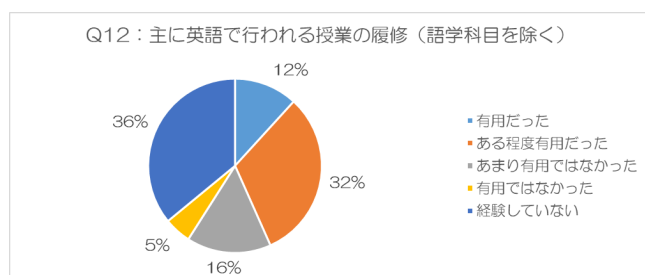
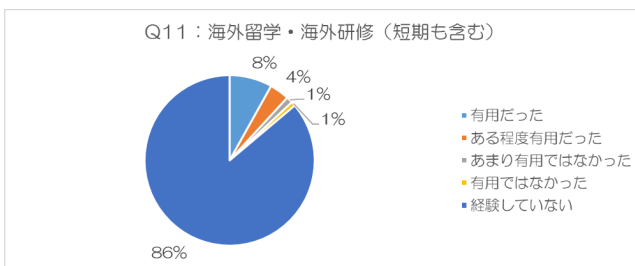
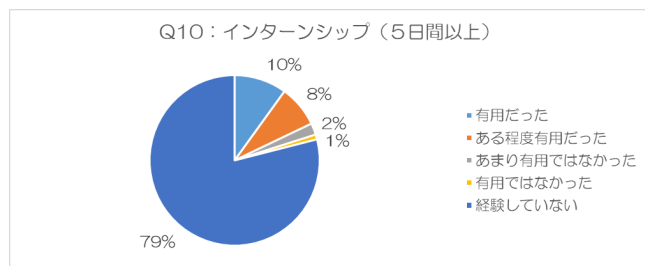
適切なコメントが付された提出物の返却（54%）、ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導（56%）については半数程度であった。



問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。

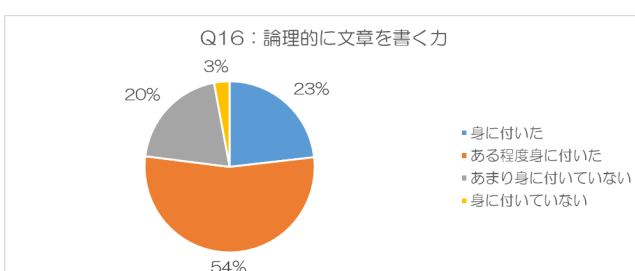
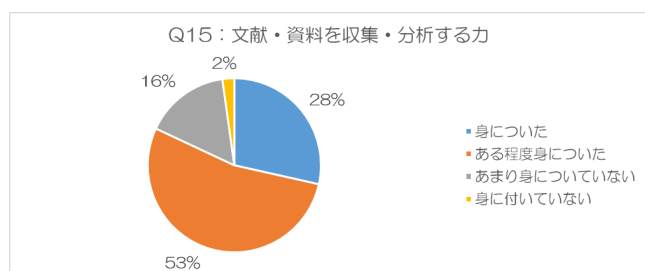
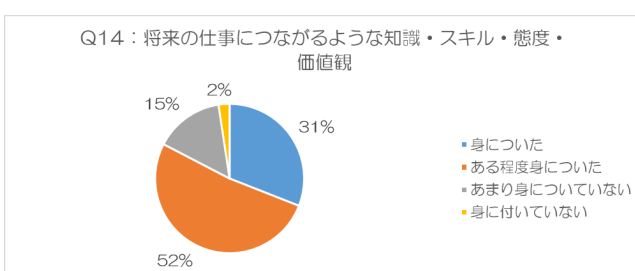
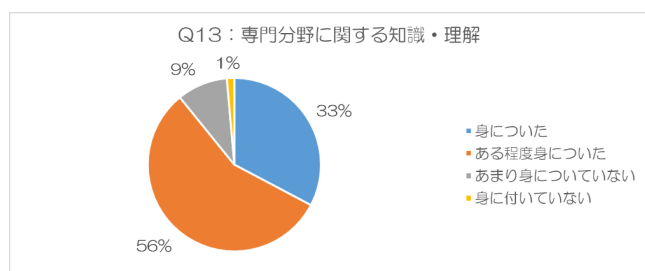
主に英語で行われる授業の履修については、6割以上が経験したことがあり、経験したことがある学生の約7割が「有用だった」、「ある程度有用だった」と回答した。

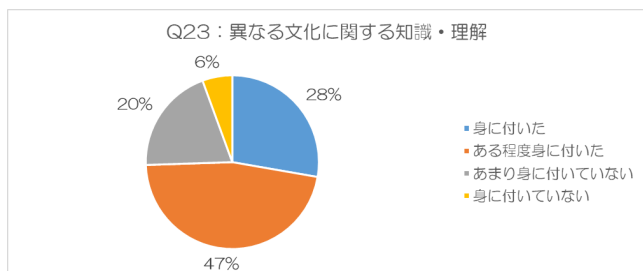
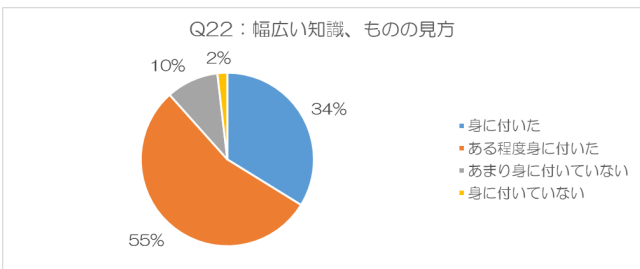
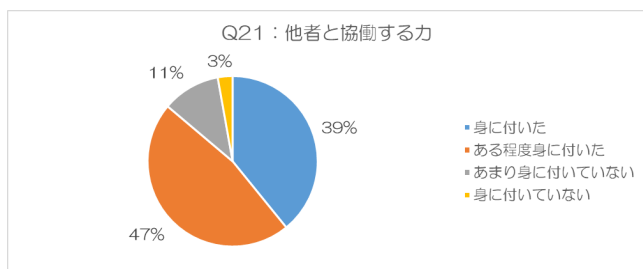
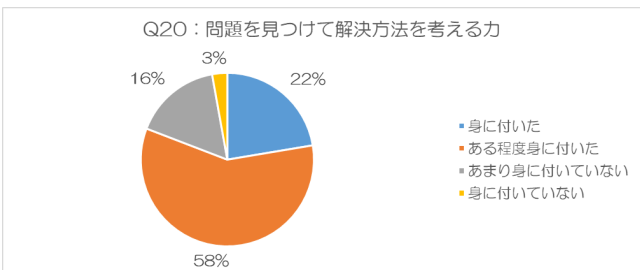
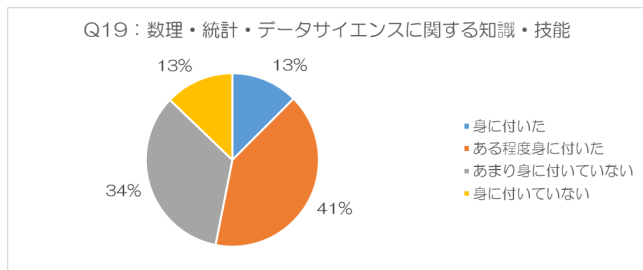
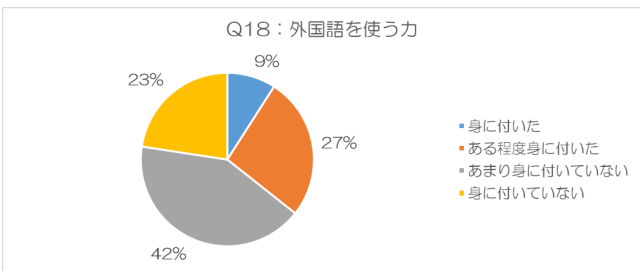
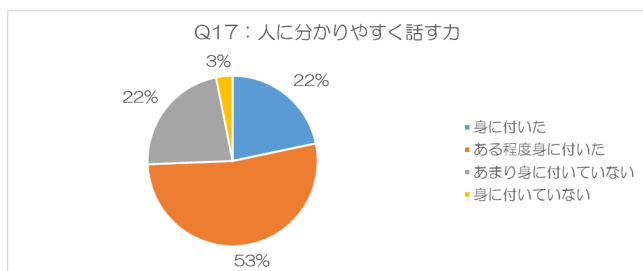
インターンシップ（5日間以上）（79%）や、海外留学・海外研修（86%）では、「経験していない」という割合が高かった。



問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

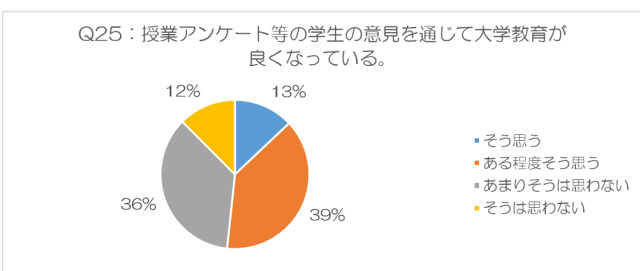
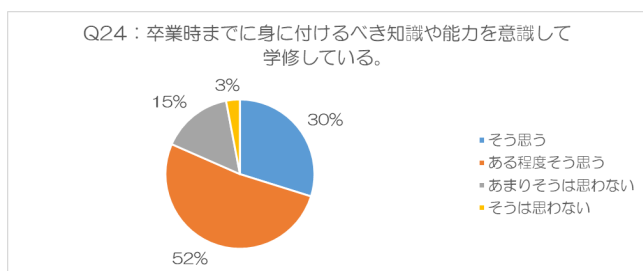
専門分野に関する知識・理解（89%）、幅広い知識、ものの見方（88%）、他者と協働する力（86%）等について、「身に付いた」、「ある程度身に付いた」という割合が高かったが、外国語を使う力（36%）については割合が低く、数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能（53%）については半数程度であった。

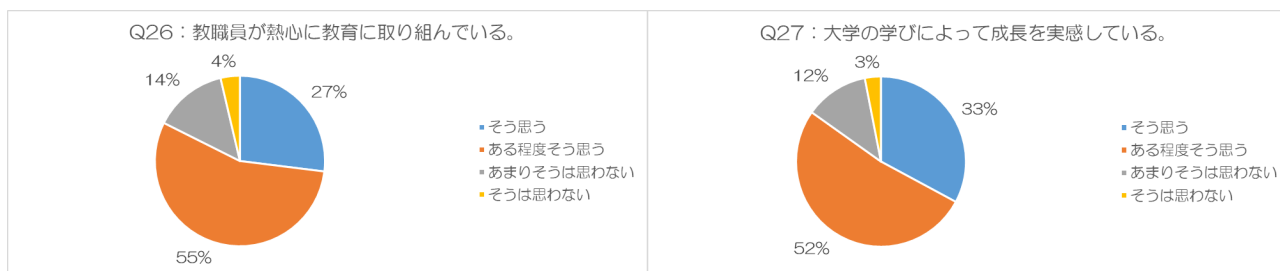




問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

大学での学びによって成長を実感している（85%）、卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している（82%）、教職員が熱心に教育に取り組んでいる（82%）について、「そう思う」、「ある程度そう思う」という割合が高かったが、授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている（52%）については半数程度となった。

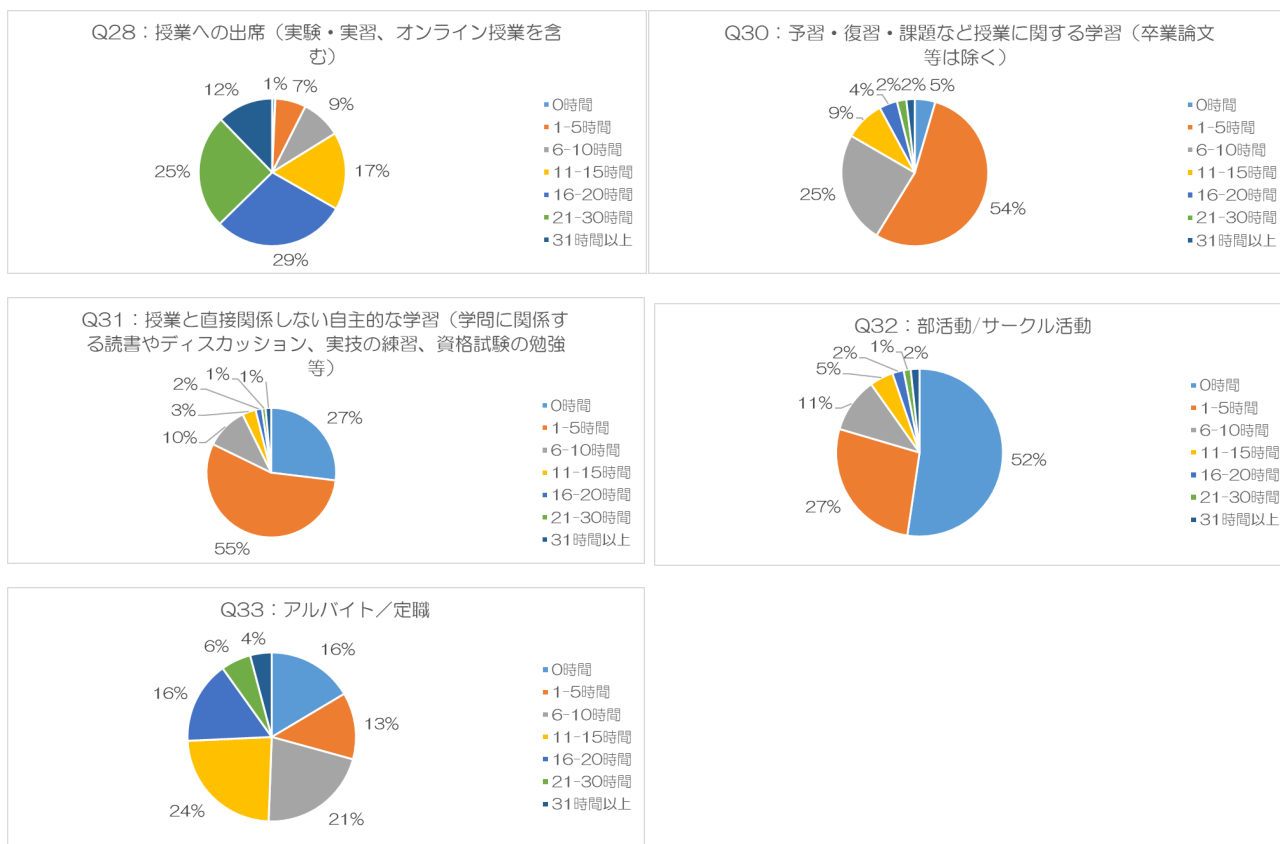




問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

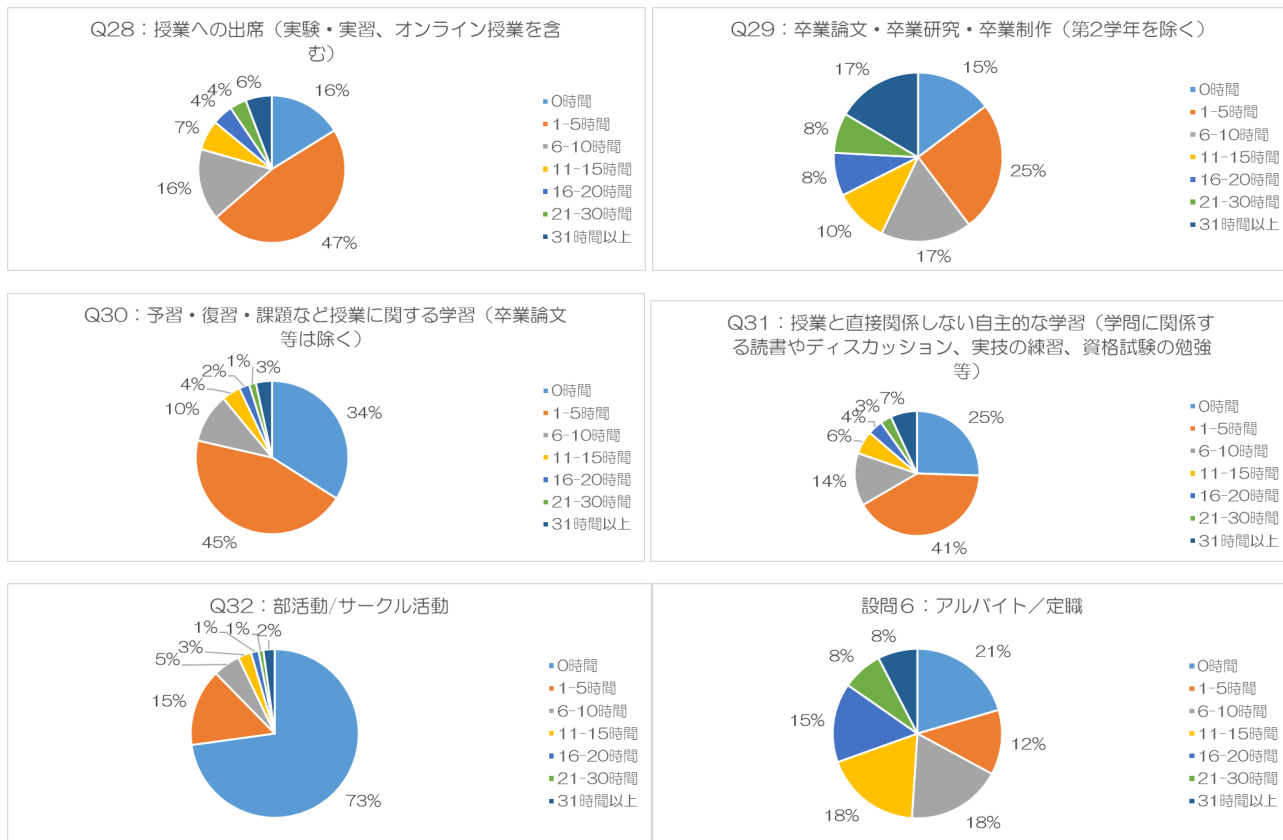
授業への出席は2年生で16時間以上が67%、4年生以上で5時間以下が64%。卒業論文等は4年生以上で16時間以上が32%。授業に関する学習は5時間以下が2年生で59%、4年生以上で79%。授業と直接関係しない自主的な学習は5時間以下が2年生で82%、4年生以上で66%。部活動／サークル活動は2年生で0時間が52%、4年生で0時間が73%。アルバイト等は2年生と4年生でともに11時間以上が約半数。¹

◆2年生（設問2を除く）

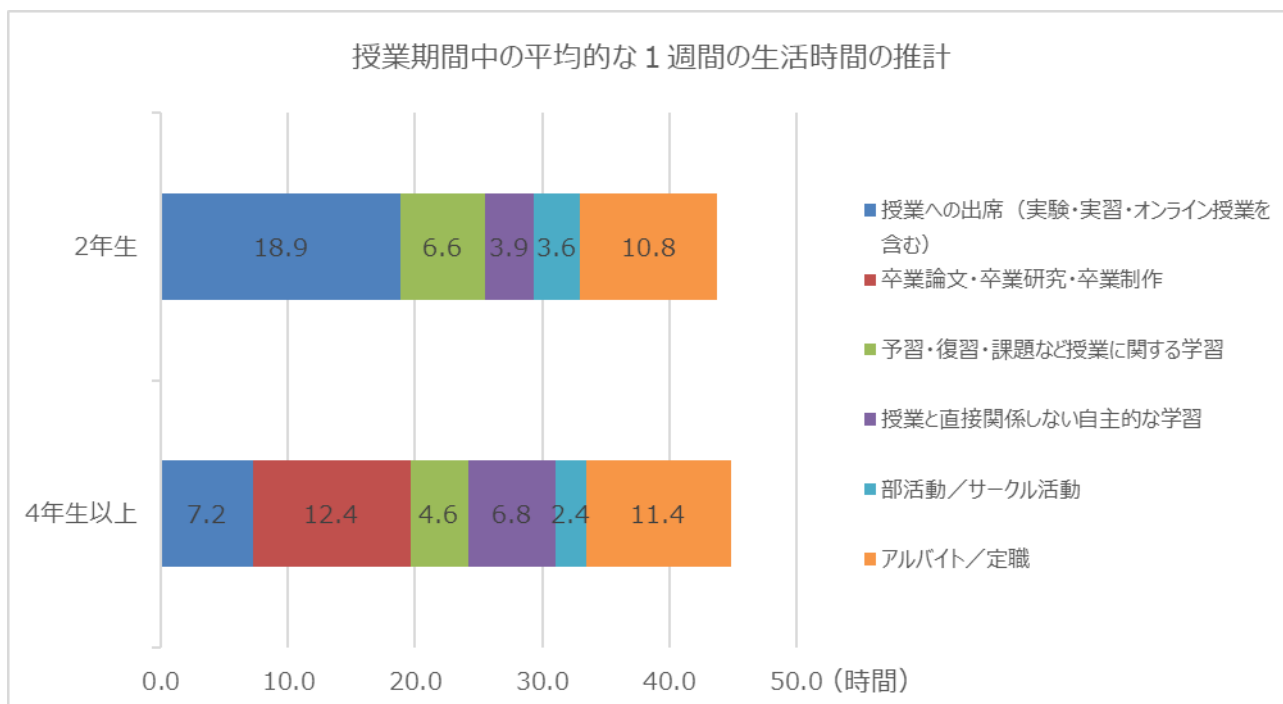


¹ 問5は、学年で回答の傾向が異なる場合があるため、学年別のデータを掲載している（その他の学年別データは別添資料編に掲載）。なお、【Q29】「卒業論文・卒業研究・卒業制作」については、最終学年のみの設問である。

◆ 4 年生以上



（参考）授業期間中の平均的な1週間の生活時間の推計

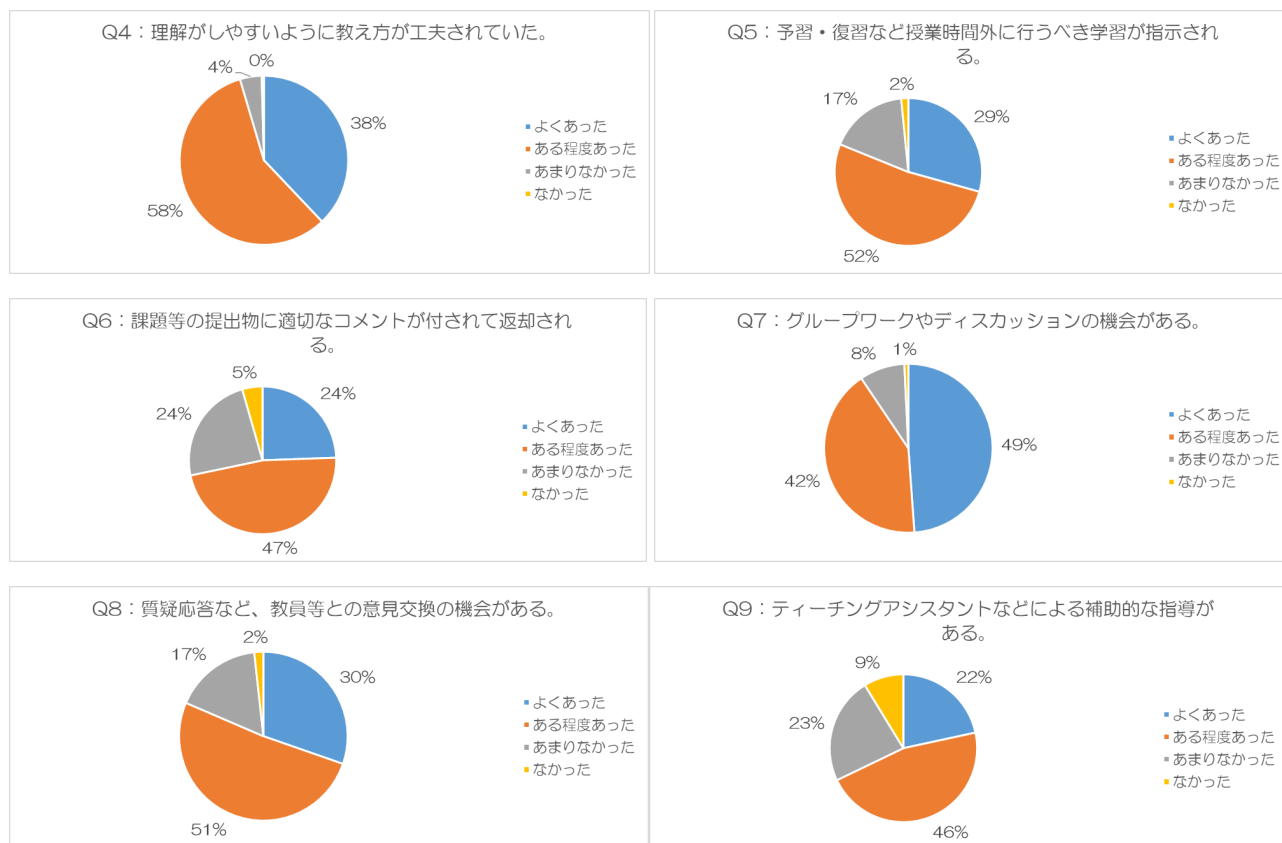


※各選択肢の中央値（ただし、31 時間以上は 33 時間）に、各選択肢の割合を乗じたものを合算し平均時間を算出。

【短期大学】

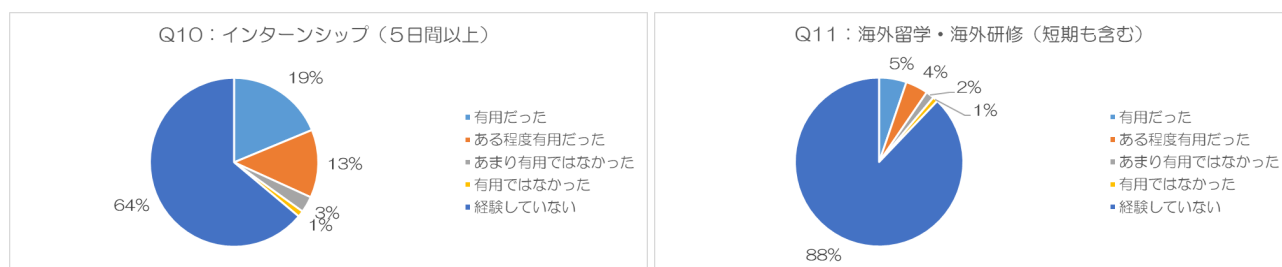
問１ 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどれくらいありましたか。

理解がしやすいような教え方の工夫（95%）、グループワークやディスカッションの機会（91%）等、全体的に「よくあった」、「ある程度あった」という回答割合が高かった。

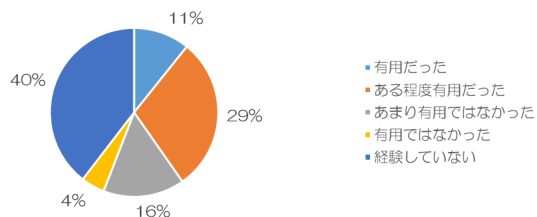


問２ 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。

主に英語で行われる授業の履修については、約６割が経験したことがあり、経験した学生の約７割が「有用だった」、「ある程度有用だった」と回答した。海外留学・海外研修（88%）、インターンシップ（64%）では「経験していない」という割合が高かった。



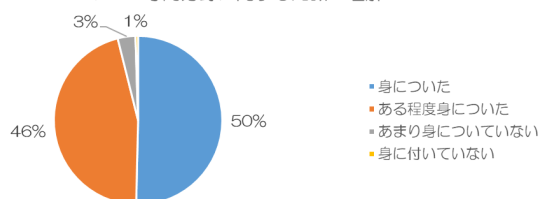
Q12：主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）



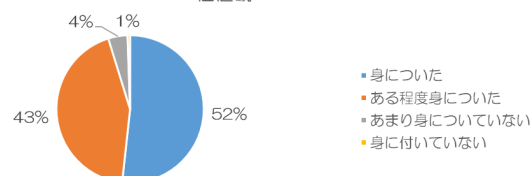
問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか。

専門分野に関する知識・理解（96%）、将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観（95%）、他者と協働する力（94%）等については、「身に付いた」、「ある程度身に付いた」という割合が高かったが、外国語を使う力（33%）については割合が低く、数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能（48%）については、半数程度であった。

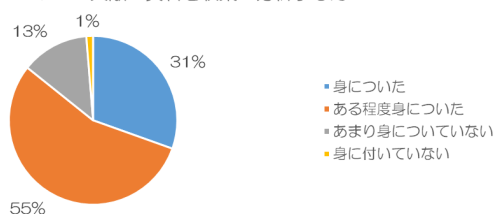
Q13：専門分野に関する知識・理解



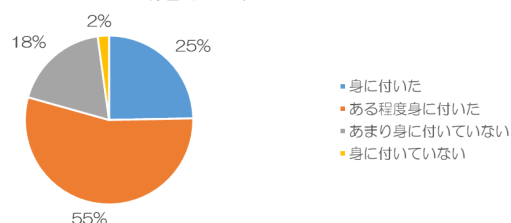
Q14：将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観



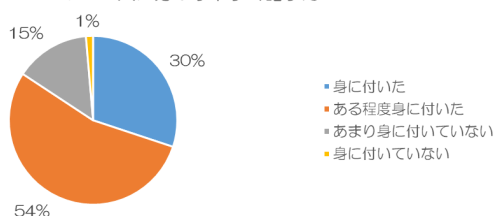
Q15：文献・資料を収集・分析する力



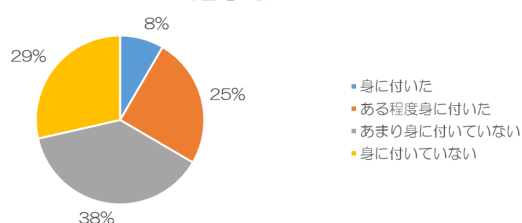
Q16：論理的に文章を書く力



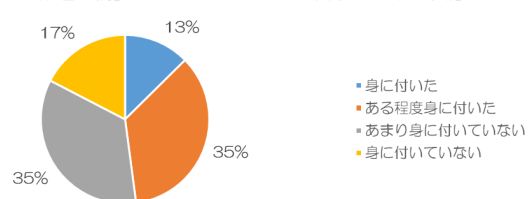
Q17：人に分かりやすく話す力



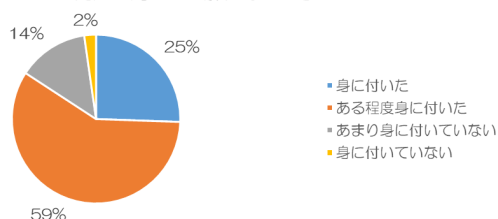
Q18：外国語を使う力

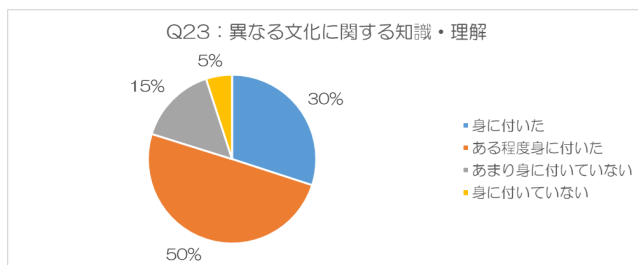
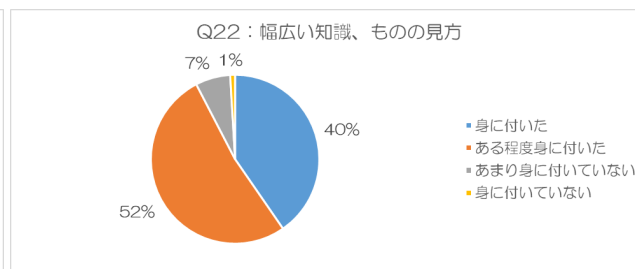
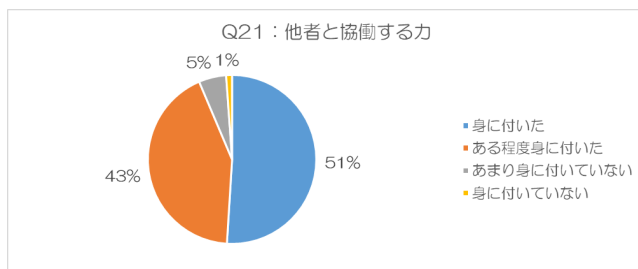


Q19：数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能



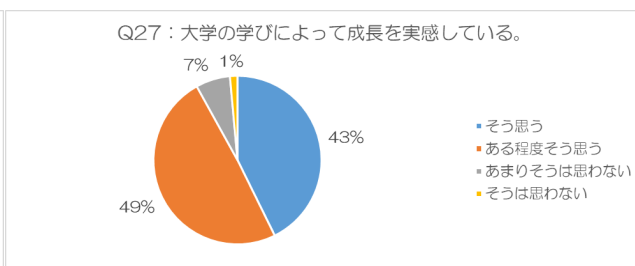
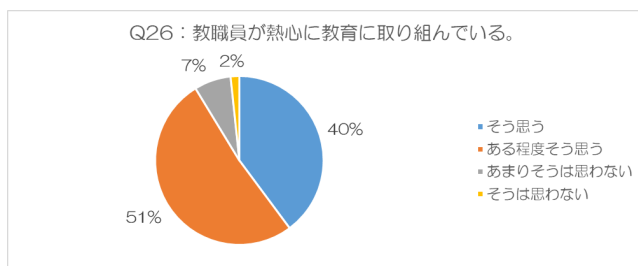
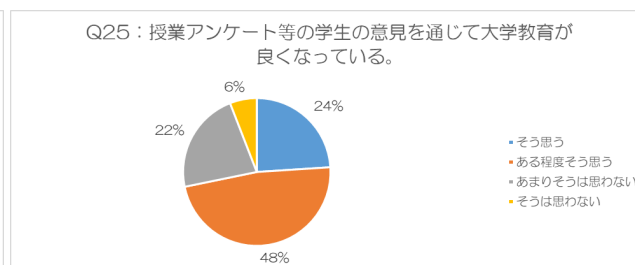
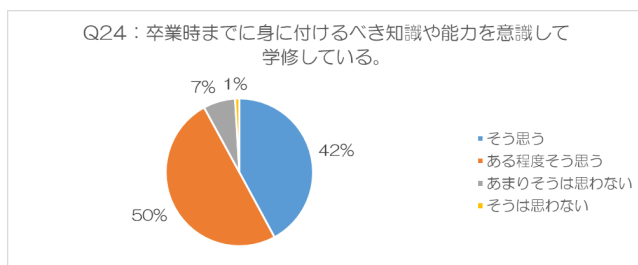
Q20：問題を見つけて解決方法を考える力





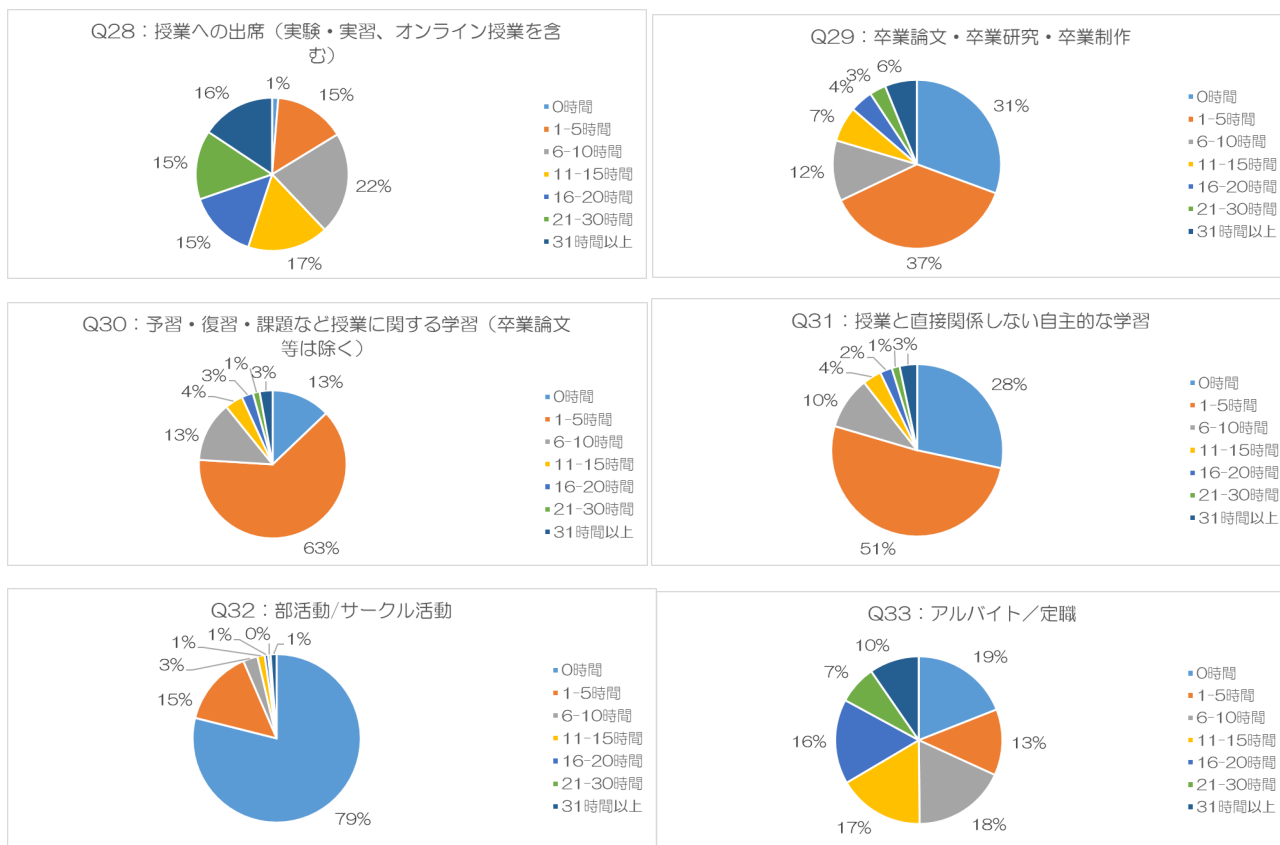
問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している（92%）、大学での学びによって成長を実感している（92%）、教職員が熱心に教育に取り組んでいる（91%）については、「そう思う」、「ある程度そう思う」という割合が特に高く、他の項目についても比較的高い割合となった。

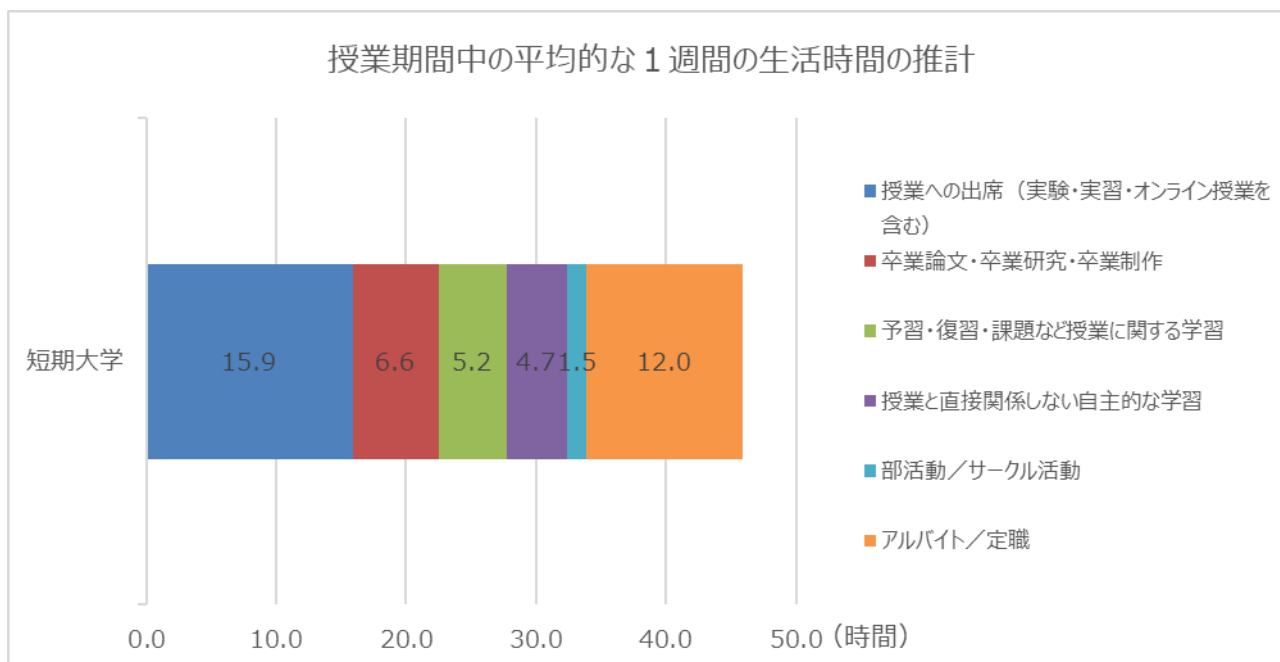


問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

授業への出席は16時間以上が45%、5時間以下が16%。卒業論文等は16時間以上が14%。授業に関する学習は5時間以下が76%。授業以外の学習は5時間以下が80%。部活動／サークル活動は0時間が79%。アルバイト等は11時間以上が50%。



（参考）授業期間中の平均的な1週間の生活時間の推計



※各選択肢の中央値（ただし、31 時間以上は 33 時間）に、各選択肢の割合を乗じたものを合算し平均時間を算出。

全体的な結果の整理に加え、各大学・短期大学における把握・分析に資するよう、以下の項目について集計を行い、別添資料編にまとめた。

- 設置者別の回答状況
- 学部・学科規模別の回答状況（集計基準合致学部）
- 学部・学科分野別の回答状況（集計基準合致学部）
- 学年別の回答状況（大学のみ）
- 設置者別と学部等規模別の回答状況の組み合わせ（集計基準合致学部）

5. 結果を踏まえた課題等

(1) 調査対象・時期・回答率について

今回調査は、大学・短期大学での学修経験や身に付いた能力に関する学生の自己認識を確認する観点から、第2回、第3回試行実施と同様、大学2年及び修業年限の最終学年の大学生並びに最終学年の短期大学生を対象に調査を実施した。また、調査実施時期は、10月下旬から3月上旬までの期間から各大学・短期大学が1か月程度の期間を選んで実施した。

回答率は、大学は13.1%、短期大学は38.0%となり、それぞれ前回調査（大学は10.6%、短期大学は27.9%）を上回る結果となった。回答率が前回調査より向上した要因については、調査時期の変更、質問項目の精査、後述の回答方法の追加などの影響が考えられる。しかしながら、本格実施に向けては、前述の項目の影響を分析するなど、有識者の意見も踏まえながら更なる回答率向上の方策を検討する必要がある。

(2) 回答方法について

今回調査については、前回調査と同様のインターネット（WEB）調査（調査方法①）に加え、参加校が実施する学生調査（参加校独自の学生調査の中に本調査の質問項目を設定）（調査方法②）を各大学・短期大学が選択する調査方法で実施した。調査方法②を選択した参加校の回答率は、大学は34.9%、短期大学は67.6%であり、調査方法①の回答率（大学は10.9%、短期大学は34.4%）を上回った。また、回答者数は、前回の107,877人から約3万人増の138,020人となり、回答率は11.1%から13.5%となったことから、回答者数の増加及び回答率向上の効果があったと考える。

(3) 質問項目について

前回調査では質問数は45問だったが、学生の回答負担、回答率に及ぼす影響等も踏まえて、質問数を33問に精査するとともに、また、学生にわかりやすい簡潔な文言に修正した。

(4) 各項目の回答状況について

《大学》

【Q6】「課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される」

「あまりなかった」又は「なかった」と回答した割合は46%と約半数であった。この項目については、自由記述においても「課題を提出したがフィードバックがなく、どこまで理解できているのか、何が間違っているのかがわからなかった」等の意見が散見されたが、学生が教員等から適切なフィードバックを受けられないことは、学修の成果を学修者が実感できる「学修者本位の教育」の実現という観点からも課題であると考えられる。

【Q18】「外国語を使う力」

「あまり身に付いていない」又は「身に付いていない」と回答した割合が64%であ

った。多くの大学において外国語が必修科目とされている中で、半数を超える学生が学修成果を実感できていないことが明らかとなった。

【Q19】「数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能」

この分野は、例えば「統合イノベーション戦略 2025」（令和 7 年 6 月 6 日閣議決定）の中でも「「数理・データサイエンス・AI」に関する素養を備え、社会のあらゆる分野で活躍する人材を大量に育成する」ことが盛り込まれるなど、重視される分野であるが、「あまり身に付いていない」又は「身に付いていない」と回答した割合が 47%と約半数であった。²

【Q25】「授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている」

「あまりそうは思わない」又は「そうは思わない」と回答した割合が 48%であり、約半数の学生は、授業アンケート等が大学教育の改善に生かされているという実感を持てていないことが明らかとなった。

【Q27】「大学での学びによって成長を実感している」

「そう思う」、「ある程度そう思う」と回答した割合は 85%であり、多くの学生は大学教育を経て自らの成長を実感していることが明らかとなった。

【Q28】「授業への出席」 ※実験・実習、オンライン授業を含む

【Q29】「卒業論文・卒業研究・卒業制作」

【Q30】予習・復習・課題など授業に関する学習 ※卒業論文等は除く

大学 2 年生は、授業への出席時間について、約 3 分の 2 の学生が週 16 時間以上、約 4 割の学生が週 21 時間以上であるなど、授業への出席時間が長い一方で、予習・復習・課題など授業に関する学習については週 5 時間以下の学生が約 6 割となっている。これらの結果は前回調査結果と比較しても改善傾向が見られず、引き続き授業への出席時間に比して授業に関する学習時間が短くなっていることが明らかとなった。これは学期末の試験結果のみで単位認定が行われるなどの理由から学生が過剰な単位登録をしており、キャップ制が実質的に機能していないことなどが考えられるが、大学設置基準において 1 単位が 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成されることを標準としている単位制度の趣旨に鑑みても大きな課題である。

また、最終学年の学生については、授業への出席時間は 6 割以上の学生が週 5 時間以下となっており、これに伴い、授業に関する学習も週 5 時間以下の学生が約 8 割を占めている。このように最終学年の学生は、授業への出席及び授業に関する学習時間が短い一方で、約 3 割の学生が卒業論文・卒業研究・卒業制作に週 16 時間以上、約 2 割の学生が週 31 時間以上と多くの時間を費やしていることがわかる。しかしながら、最終学年の学生であっても、約 4 割の学生は卒業論文・卒業研究・卒業制作を行う時間が 5 時間以下であり、最終学年においては、学習時間が極めて短い学生も一定数いることが伺える。

² 「数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能」については学部分野別の差異が比較的大きく、理学・工学においては「身に付いた」「ある程度身に付いた」とする回答の割合が高い（別添資料編 53 頁参照）。

こうした状況の背景には、就職活動等による影響や上記で指摘したキャップ制が実質的に機能していないといった課題があるものと考えられる。

《短期大学》

短期大学については、概ね大学と同様の傾向が見られたが、大学と比較して、全体として、短期大学の教育活動、短期大学での学びに対する肯定的な回答の割合が高い傾向にあった。

問1 関係では、【Q6】「課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される」に関する「よくあった」「ある程度あった」は計72%であり、大学より18ポイント高かったほか、【Q7】「グループワークやディスカッションの機会がある」は計91%であり、大学より12ポイント高かった。

問2 関係では、【Q10】インターンシップ（5日間以上）を経験したことがある学生が36%（大学21%）と高い割合を示し、経験した学生のうち、88%（大学85%）が肯定的な回答（有用だった、ある程度有用だった）であった。

問3 関係では、【Q14】「将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観」が「身に付いた」「ある程度身に付いた」が計95%（大学83%）であり、職業教育の成果が評価されていると捉えることができる。

問4 関係でも、全体として、短期大学の学生は、自らの成長や身に付けた知識・技能について、大学の学生と比較してより肯定的に評価していることが明らかになった。また、【Q25】「授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている」では「そう思う」または「ある程度そう思う」と回答した割合は72%と大学よりも20%高く、大学と比較してより学生の意見を踏まえた教学の改善を学生が実感できていることが見てとれる。

問5 関係では、【Q30】「予習・復習・課題など授業に関する学習」が5時間以下の学生の割合が76%であり、【Q31】「授業と直接関係しない自主的な学習（学問に関係する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）」では5時間以下が80%を占め、学習時間の短さは大学と同様に課題であると言える。

《これまでの試行実施との比較》

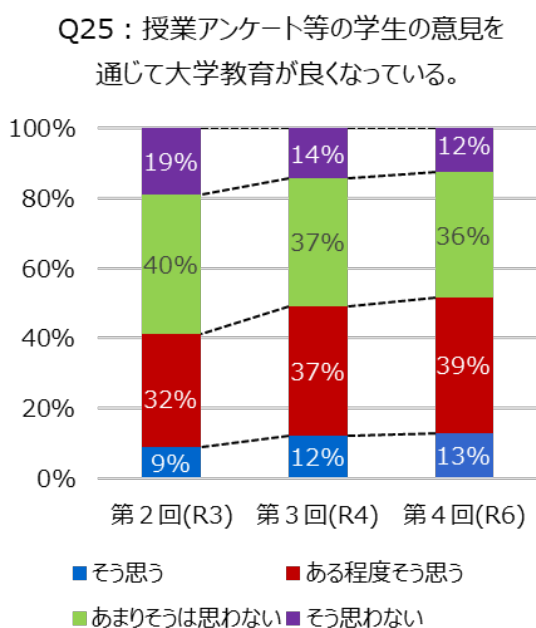
【Q7】「グループワークやディスカッションの機会がある」については、「よくあった」、「ある程度あった」と回答した学生の割合が第2回（令和3年度）、第3回（令和4年度）試行実施と比較して増加した（大学：65%→74%→79%、短大：73%→87%→91%）。

【Q25】授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。の質問項目について、「そう思う」、「ある程度そう思う」の割合が第2回（令和3年度）、第3回（令和4年度）と比較して増加しており（図1参照）、アンケートを通じた教育の質向上の取り組みが進んでいることが見て取れる。その他、【Q11】海外留学・海外研修（短期留学も含む）を経験した学生の割合（大学は+4%、短大は+2%）、【Q23】異なる文化に関する知識・理解の質問項目について「身に付いた」、「ある程度身に付いた」の割合（大学は+10%、短大は+12%）が前回調査結果よりも高くなった。

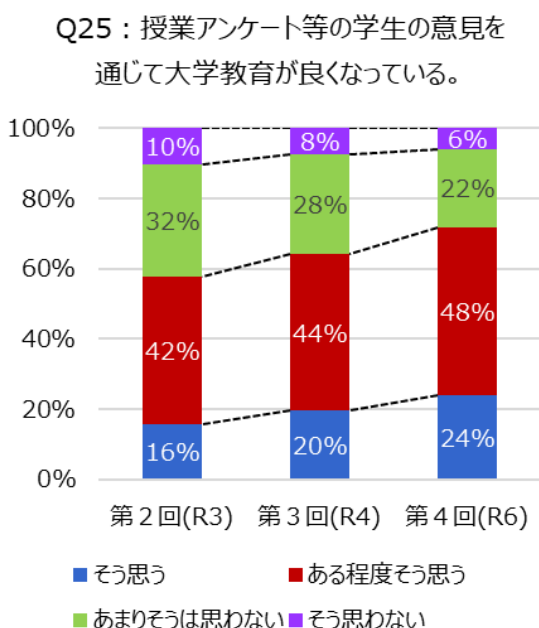
これらに加えて、大学については、【Q14】「将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観」という質問項目について、「身に付いた」、「ある程度身に付いた」の割合が第2回（令和3年度）、第3回（令和4年度）と比較して増加している（76%→80%→83%）³。【Q27】「大学での学びによって成長を実感している」という質問項目について、「そう思う」、「ある程度そう思う」の割合が第2回（令和3年度）、第3回（令和4年度）と比較して増加している⁴（図2参照）一方で、【Q30】予習・復習・課題など授業に関する学習時間（※卒業論文等は除く）について、週6時間以上の学生の割合が第2回（令和3年度）、第3回（令和4年度）試行実施と比較して減少し、アルバイト、部活・サークル活動の時間が増加しており（図3参照）、新型コロナウイルス感染症の感染拡大期に増加していた学習時間が減少している状況が窺える⁵。

また、短期大学について、【Q6】「課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される」という質問項目について、「そう思う」、「ある程度そう思う」の割合が第2回（令和3年度）、第3回（令和4年度）と比較して増加している。

（図1：大学）



（図1：短大）

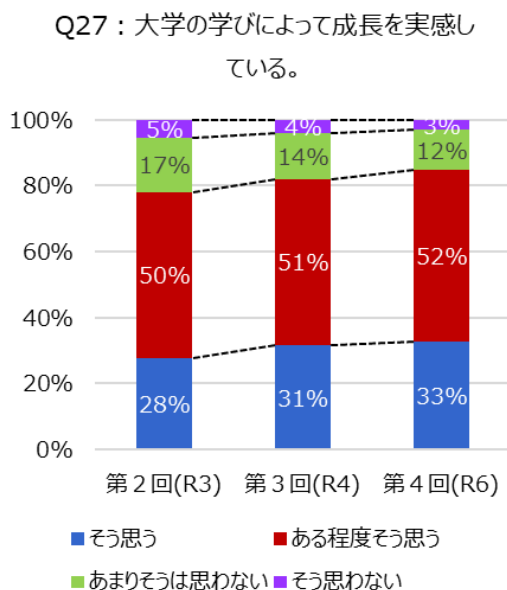


³ 第2回（令和3年度）、第3回（令和4年度）の設問は、「将来の仕事につながるような知識・技能」であった。

⁴ 第2回（令和3年度）、第3回（令和4年度）の設問は、「大学での学びによって自分自身の成長を実感している」であった。

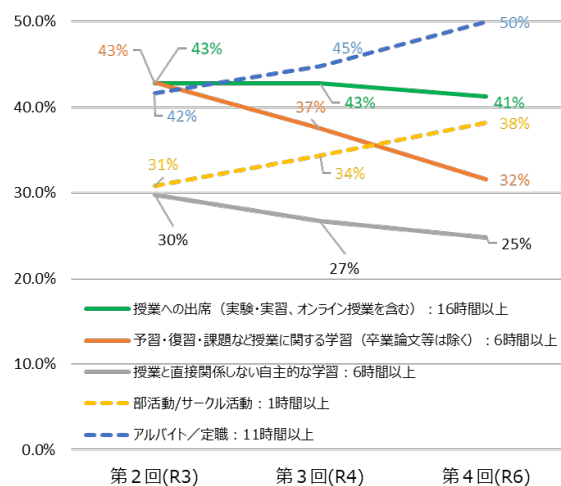
⁵ 単純な比較はできないが、第1回（令和元年度）では、大学3年生の授業（実験・実習含む）への出席が16時間以上の学生は48.5%、予習・復習・課題など授業に関する学習が6時間以上の学生は32.8%、授業以外の学習が6時間以上の学生は26.5%という結果であった。

(図 2)



(図 3)

Q28、30、31、32、33：学生の1週間の生活時間について
(大学2年生と最終学年の合計)



(5) 調査結果の取扱いについて

今回調査は、適切な調査方法や質問項目などを整理・検証することを目的に、試行という位置付けで実施したため、公表内容は「全国学生調査の実施に関する有識者会議」における検討結果に基づき、全体の回答状況及び学部・学科の回答を設置者別、学部・学科規模別、学部・学科分野別、学年別（短期大学を除く）、設置者別と学部等規模別の組み合わせにより整理したものとした。また、問1～4の各質問項目において肯定的な回答割合が高かった大学・短期大学の学部（学科）ごとに上位順に一覧化したもの（以下、「ポジティブリスト」という。）及びこれらの大学・短期大学の教育方法・教育改善の取組事例を公表した。

また、前回調査と同様、各大学・短期大学において調査結果を教育の改善に活用できるよう自大学・短期大学の回答のみを個別に送付したほか、今後、教学IRレポートのひな形を提供し、教育改善への活用を促進する。

本格実施では、大学・短期大学単位、学部・学科単位の結果や教学の改善に関する取組を公表することにより、規模や立地、知名度等による入学者選抜の選抜性の高低によらず、教育研究の質の高度化に向けた取り組みについて、国際社会を含む外部から適切な評価を得ていくことを期待する。

(6) 今後の対応

文部科学省としては、大学・短期大学における「学修者本位の教育への転換」をするための施策の検討の参考資料とするとともに、今回明らかになった調査実施上の課題等を踏まえ、「全国学生調査」の本格実施を進める。

<担当> 高等教育局高等教育企画課高等教育政策室

室 長 寺坂 公佑（内線 2473）

課長補佐 花田 大作（内線 3330）

主 任 土田 裕美（内線 3332）

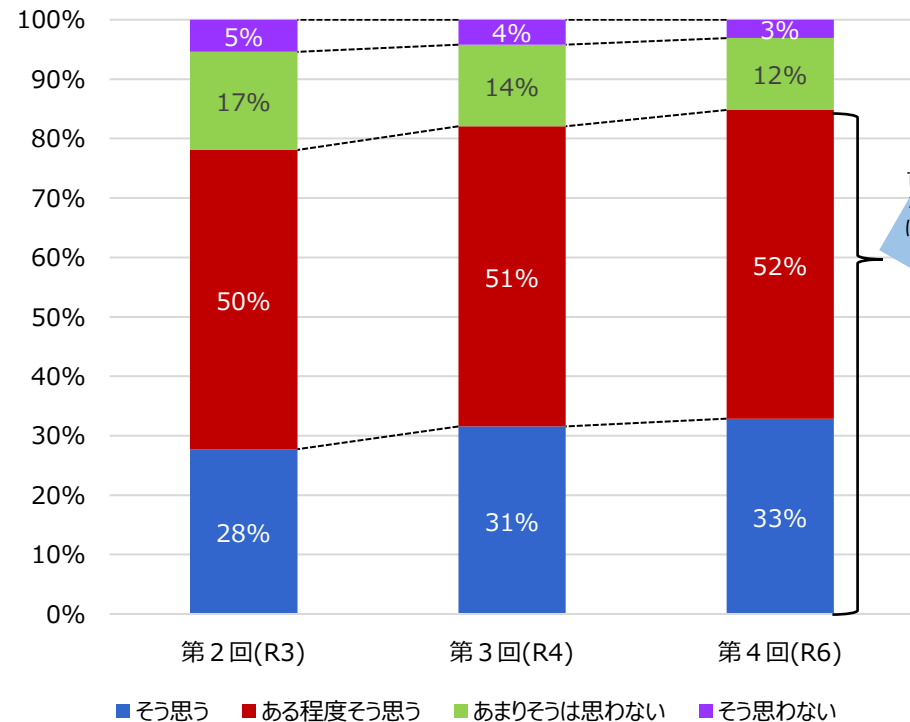
電話：03-5253-4111（代表）、03-6734-3332（直通）

令和6年度「全国学生調査（第4回試行実施）」のポイントについて①【学生の成長実感】

○大学での学びによって成長を実感している学生の割合が増加している。この背景として、学生が、大学の学びにおいて、専門的な知識・技能や汎用的な知識・技能を身に付けている実感を持つようになったことが考えられる。

大学での学びによって成長を実感している学生の割合が増加している。

Q27：大学の学びによって成長を実感している。



肯定的な回答について

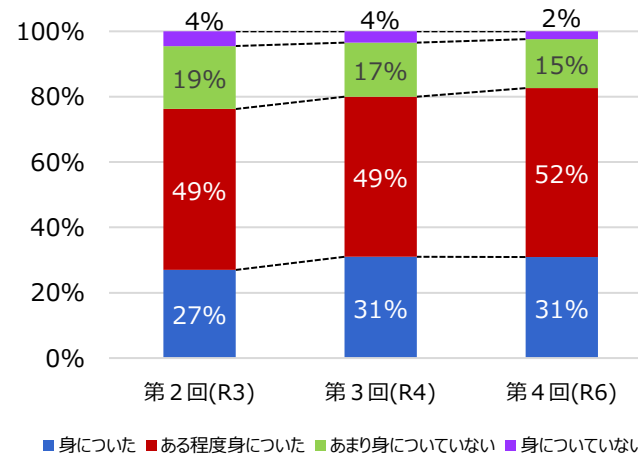
○左記設問で肯定的な回答をした学生は、大学の学びにおいて、専門的な知識・技能（Q13、14）及び汎用的な知識・技能（Q20、22）を身に付けたと回答した割合が高く、また、当該学生が所属する大学では、ディプロマ・ポリシーの明確化や教職員による熱心な教育といった組織的な取組（Q24、26）が進んでいる傾向がある。

※大学での学びによって成長を実感している学生が肯定的な回答をした質問項目（カッコ内は肯定的な回答の割合）

- ・Q13：専門分野に関する知識・理解（96.3%）
- ・Q14：将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観（92.0%）
- ・Q20：問題を見つけて解決方法を考える力（90.4%）
- ・Q22：幅広い知識、ものの見方（95.3%）
- ・Q24：卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。（87.8%）
- ・Q26：教職員が熱心に教育に取り組んでいる。（89.8%）

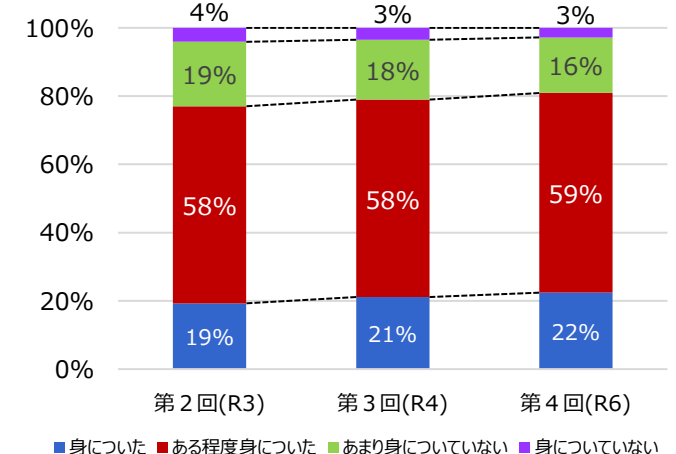
○上記の質問項目のうちQ14、Q20は、3回の調査を通じて、肯定的な回答の学生の割合が増加している。（注）

Q14：「将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観」が身についたか？



※第2回、第3回の設問は「将来の仕事につながるような知識・技能」、第4回の設問は「将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観」。

Q20：「問題を見つけて解決方法を考える力」が身についたか？



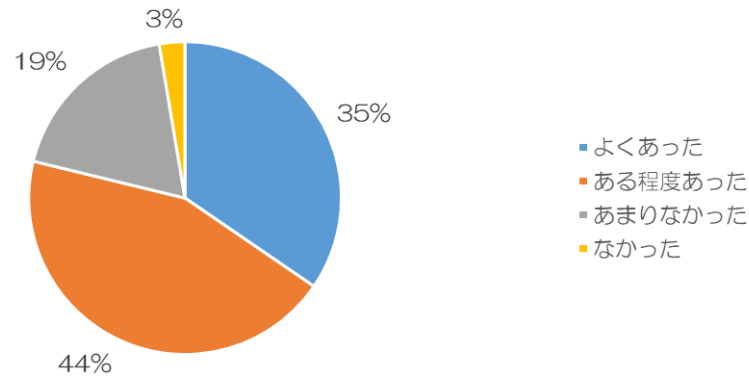
（注）3回を通じて比較可能な質問項目のみ言及

※第2回、第3回の設問は「大学での学びによって自分自身の成長を実感している。」、第4回の設問は「大学での学びによって成長を実感している。」

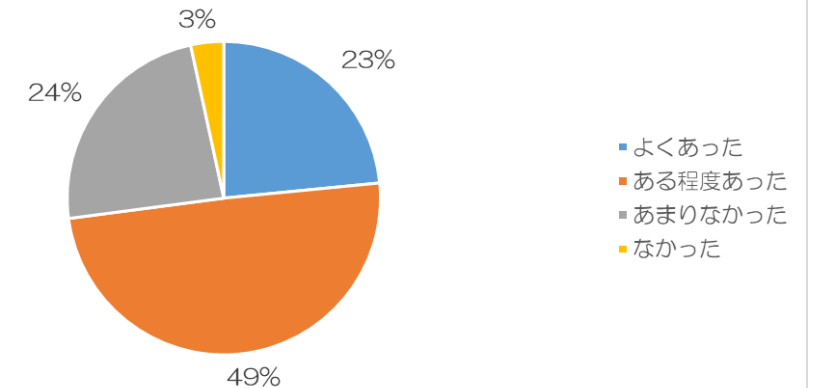
令和6年度「全国学生調査（第4回試行実施）」のポイントについて②【学部規模と能動的な学習機会】

○学部の規模が小さいほど、「グループワークやディスカッションの機会がある」（79%）、「質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある」（73%）といった能動的な学習機会が、どの設置者でも多い傾向があった（「よくあった」、「ある程度あった」という割合が高かった。）。

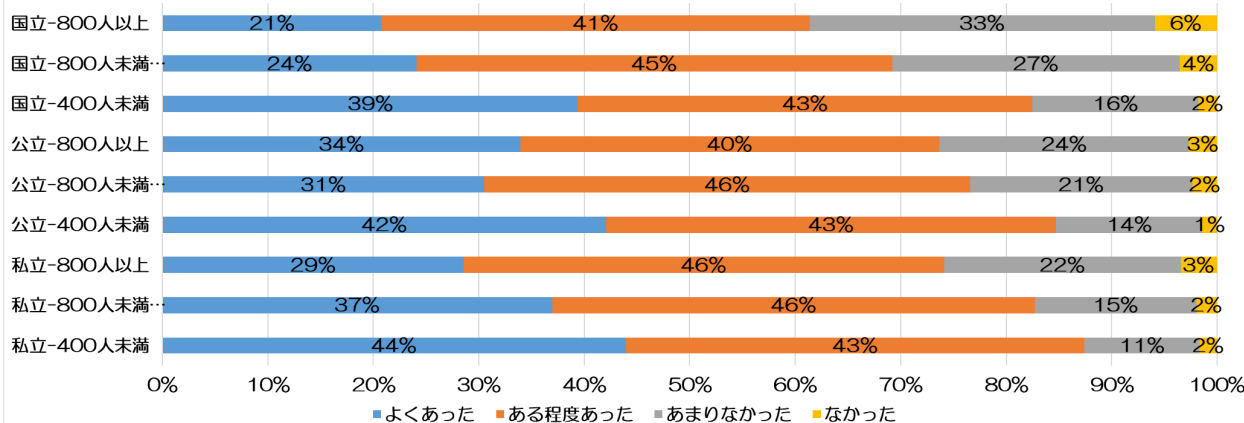
Q7：グループワークやディスカッションの機会がある。



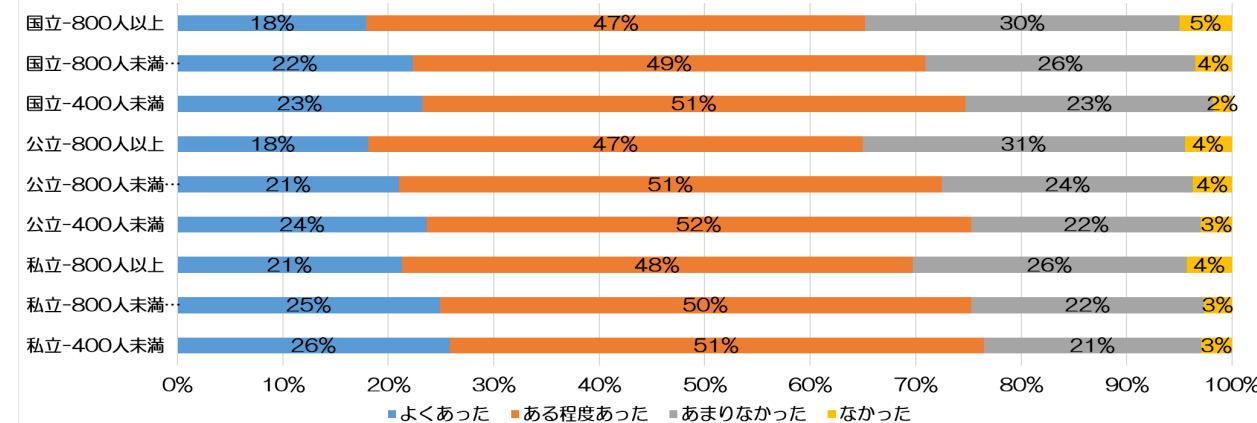
Q8：質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。



Q7：グループワークやディスカッションの機会がある。



Q8：質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。



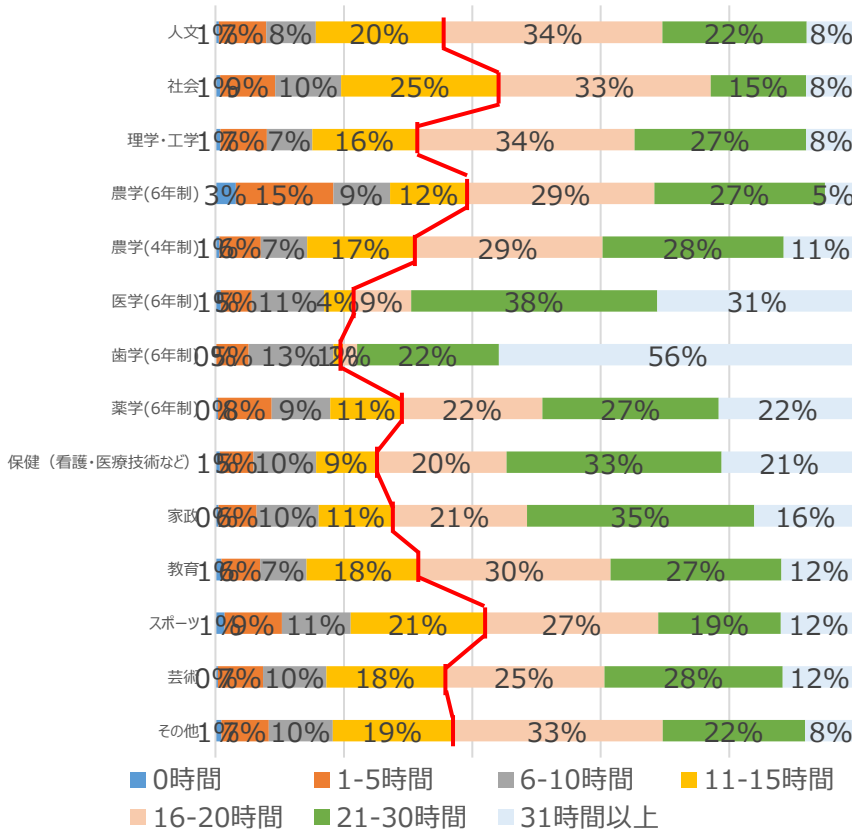
令和6年度「全国学生調査（第4回試行実施）」のポイントについて③【大学2年生の学習時間】

大学2年生の学習時間について、

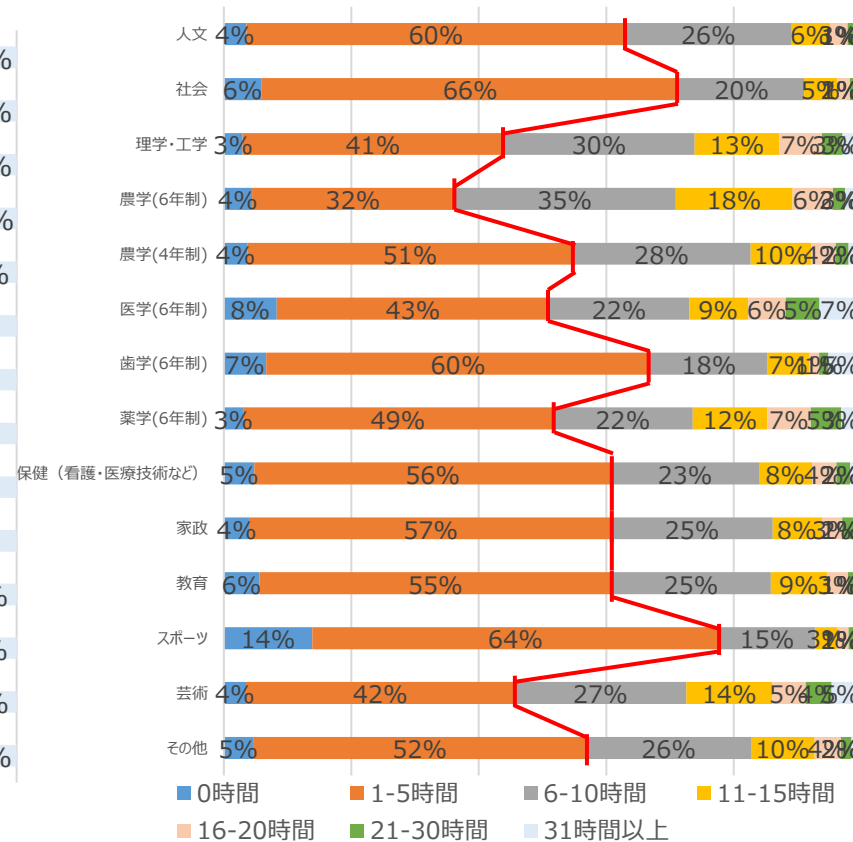
- 人文、社会**は、**授業に関する学習時間が短い傾向**にある。また、予習・復習・課題以外の自主的な学習時間についても短いことから、**全般的に学習時間が短い傾向**にある
- 理・工、農学**は、**授業への出席時間、授業に関する学習時間ともに他分野に比してやや長い傾向**にある。
- 医、薬、保健**は、**授業への出席時間が長い**。また、**授業に関する学習時間も比較的長い**。

※サンプル数が少ない分野については、言及していない

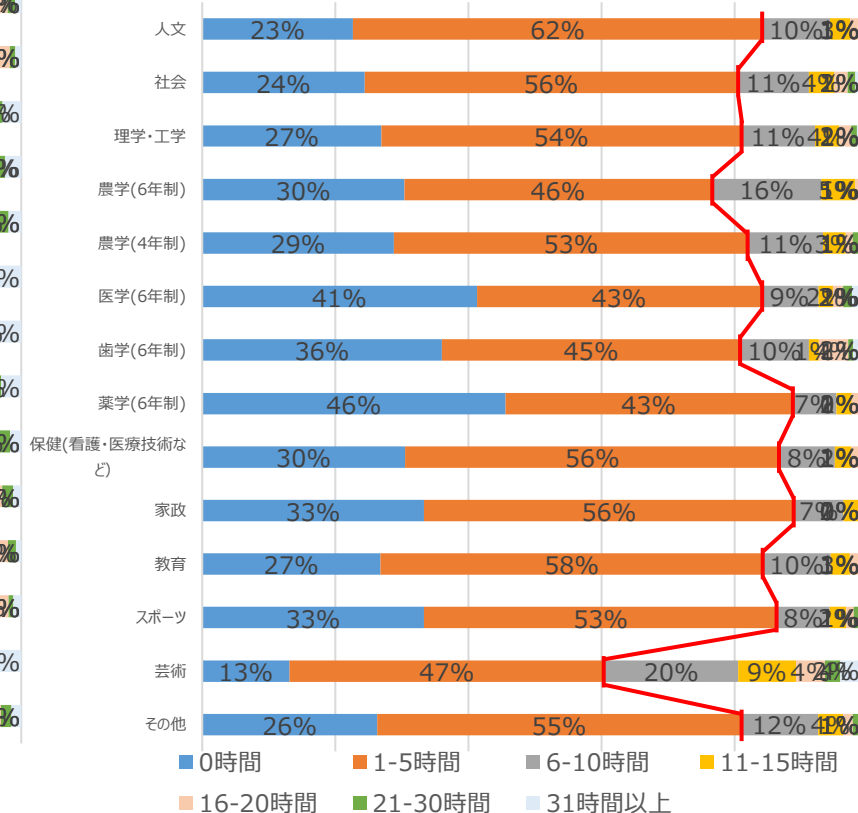
Q28：授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）（2年生）



Q30：予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）（2年生）



Q31：授業と直接関係しない自主的な学習（学問に関する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）（2年生）



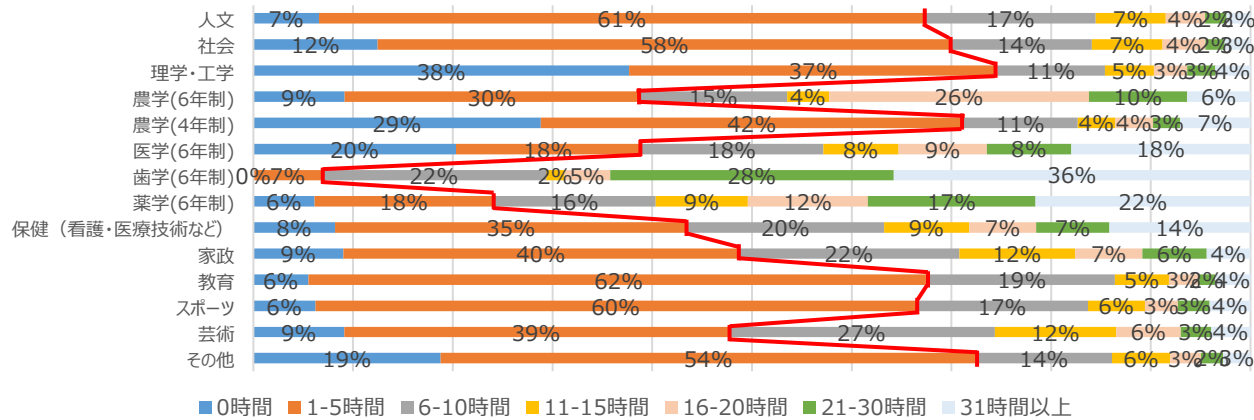
令和6年度「全国学生調査（第4回試行実施）」のポイントについて③【大学最終学年生の学習時間】

大学最終学年生の学習時間について、

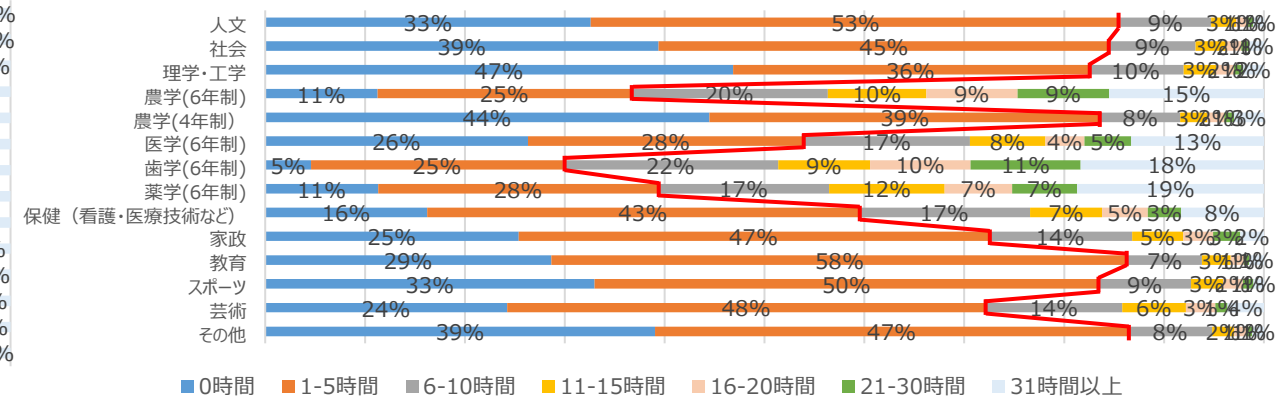
- 人文、社会**は、**授業への出席時間、授業に関する学習時間が短く、卒論等に取り組む時間も短い学生が比較的多い。**
- 理・工、農学**は、**授業への出席時間、授業に関する学習時間は短い**が、**卒業論文等に費やす時間が長い。**
- 医、薬、保健**は、**授業への出席時間が長く、授業に関する学習時間も比較的長い。**また、**予習・復習・課題以外の学習時間（読書、実技の練習、資格試験の勉強等）が長い。**卒業論文等については、**医で取り組んでいる学生は少ない。**

※サンプル数が少ない分野については、言及していない

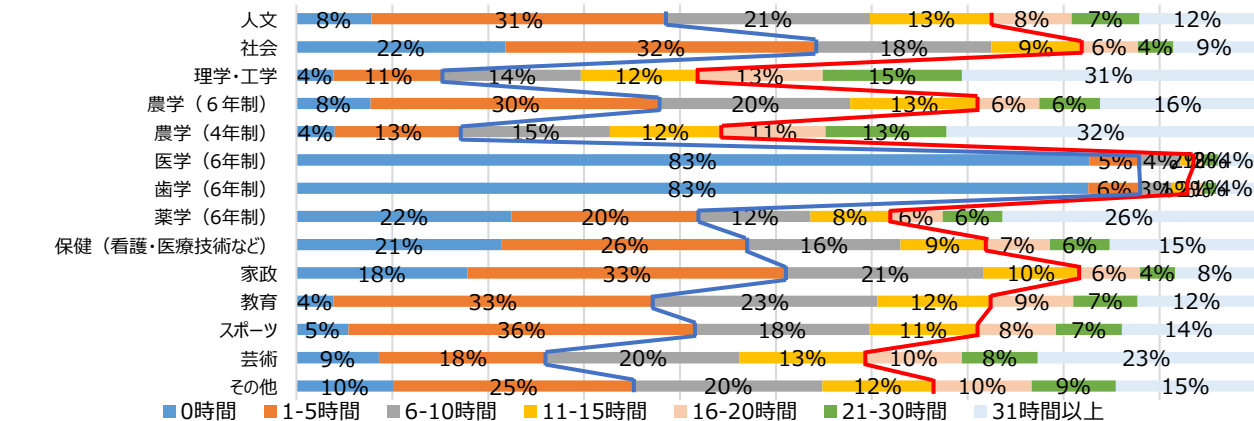
Q28：授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）（最終学年生）



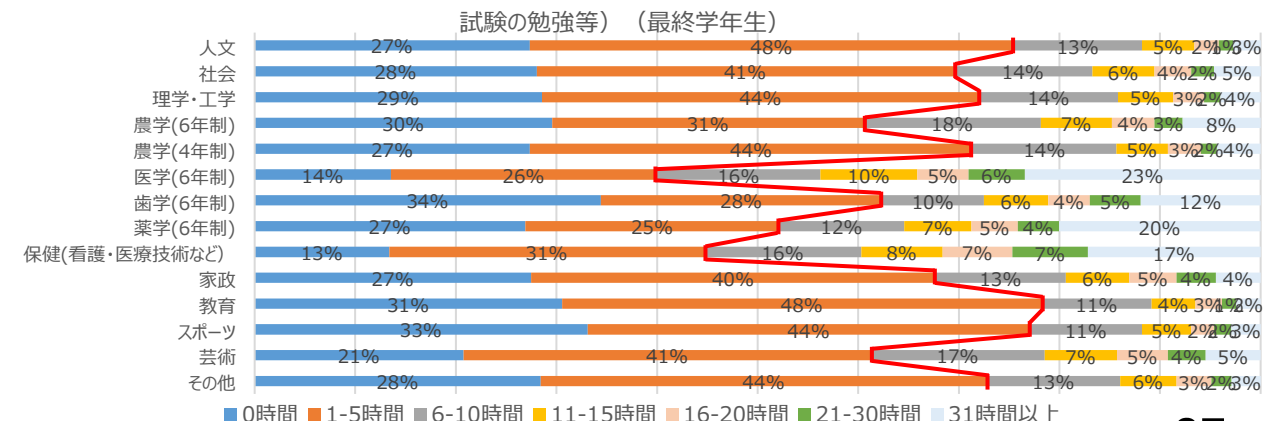
Q30：予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）（最終学年生）



Q29：卒業論文・卒業研究・卒業制作（第2学年を除く）

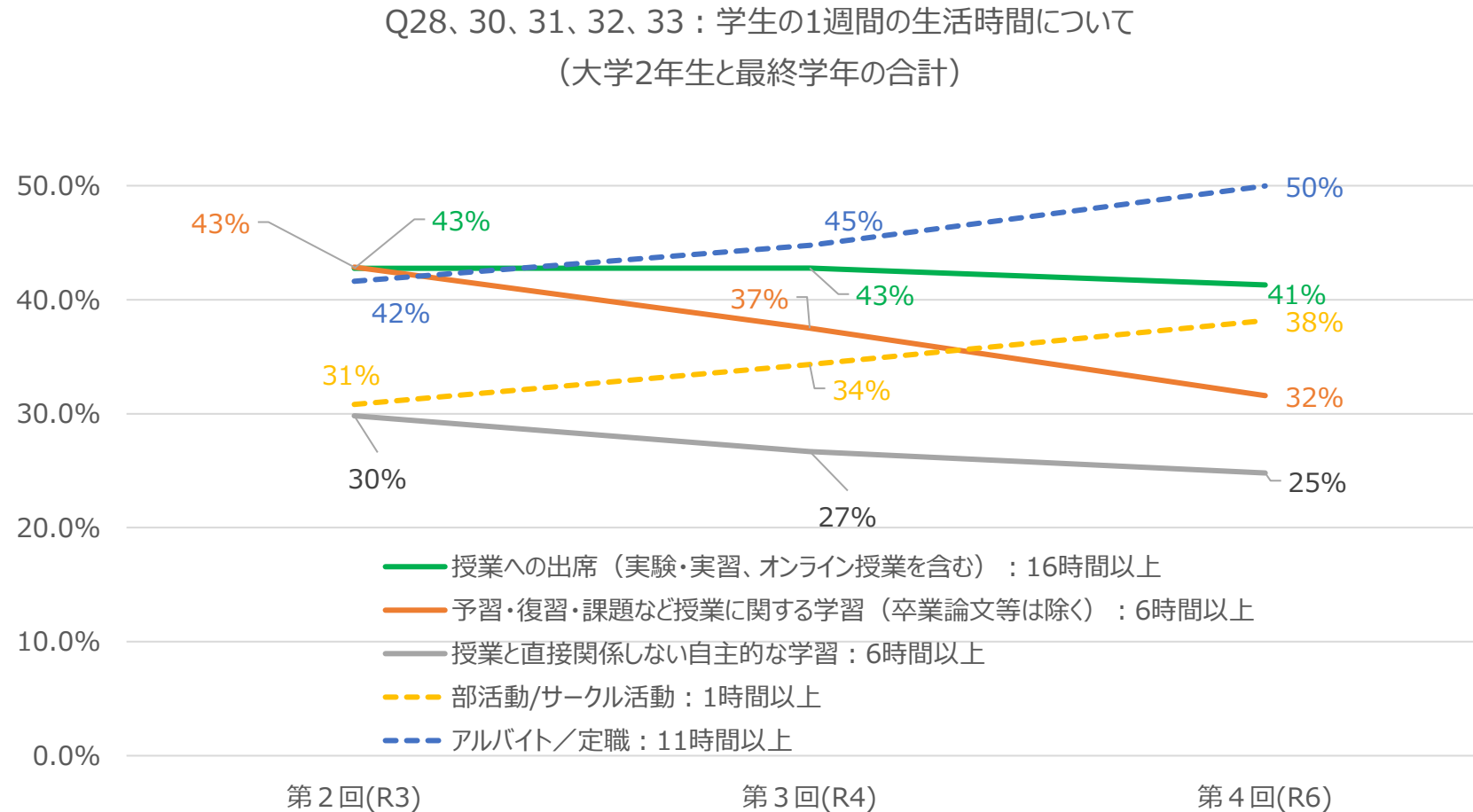


Q31：授業と直接関係ない自主的な学習（学問に関する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）（最終学年生）



令和6年度「全国学生調査（第4回試行実施）」のポイントについて④（大学生の生活時間について）

○大学生の学習時間が減少している一方で、アルバイト、部活動・サークル活動の時間が増加しており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大期に増加していた学習時間が減少している状況が窺える



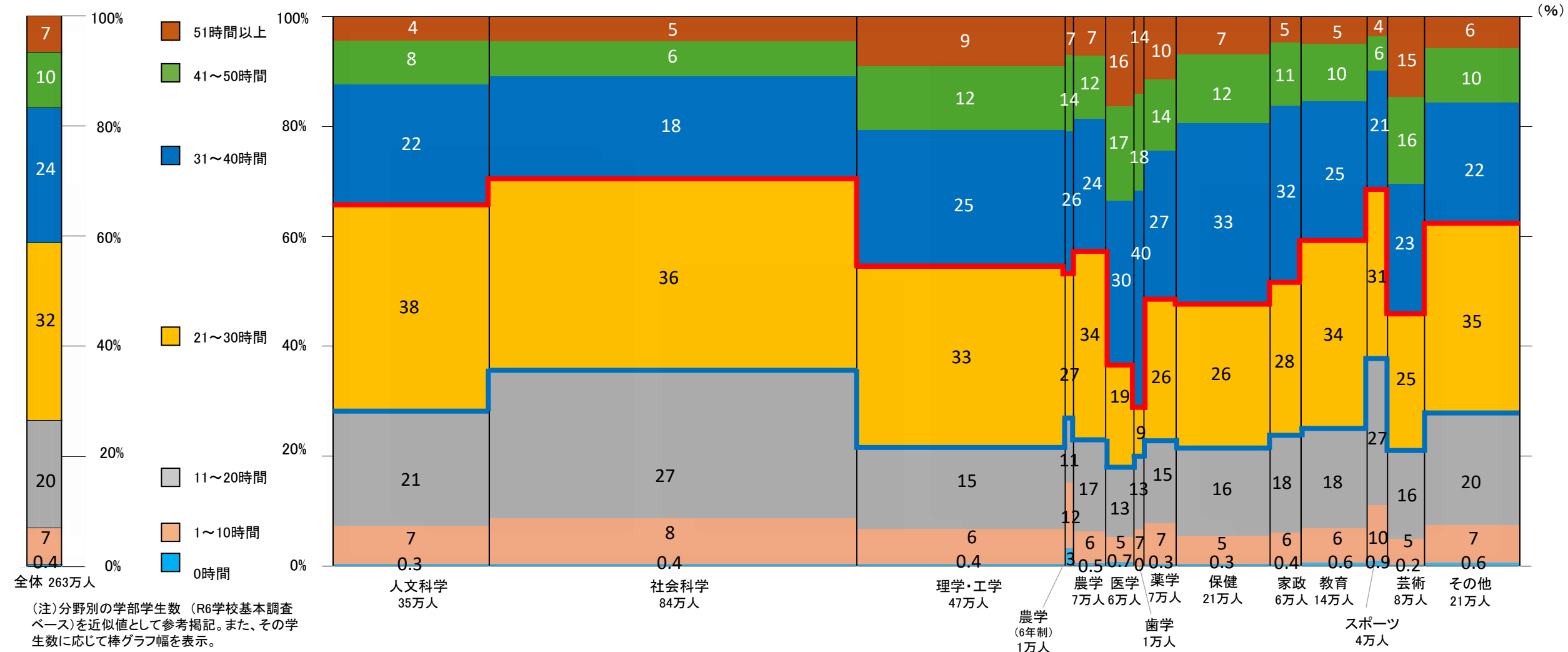
※単純な比較はできないが、令和元年（第1回）では、大学3年生の授業（実験・実習含む）への出席が16時間以上の学生は48.5%、予習・復習・課題など授業に関する学習が6時間以上の学生は32.8%、授業以外の学習が6時間以上の学生は26.5%という結果であった。

全国学生調査（第4回試行実施）の調査結果をもとに 作成した推計資料

1週間の学習時間の割合推計（授業、予習・復習、自主学習）【2年生・分野別】

大学2年生の授業期間中の平均的な1週間の学習時間の推計結果として、**理・工、農学、医、薬、保健**の学生の学習時間は比較的長い一方で、**人文、社会**など学生の学習時間は短い傾向がある。

※サンプル数が少ない分野については、言及していない

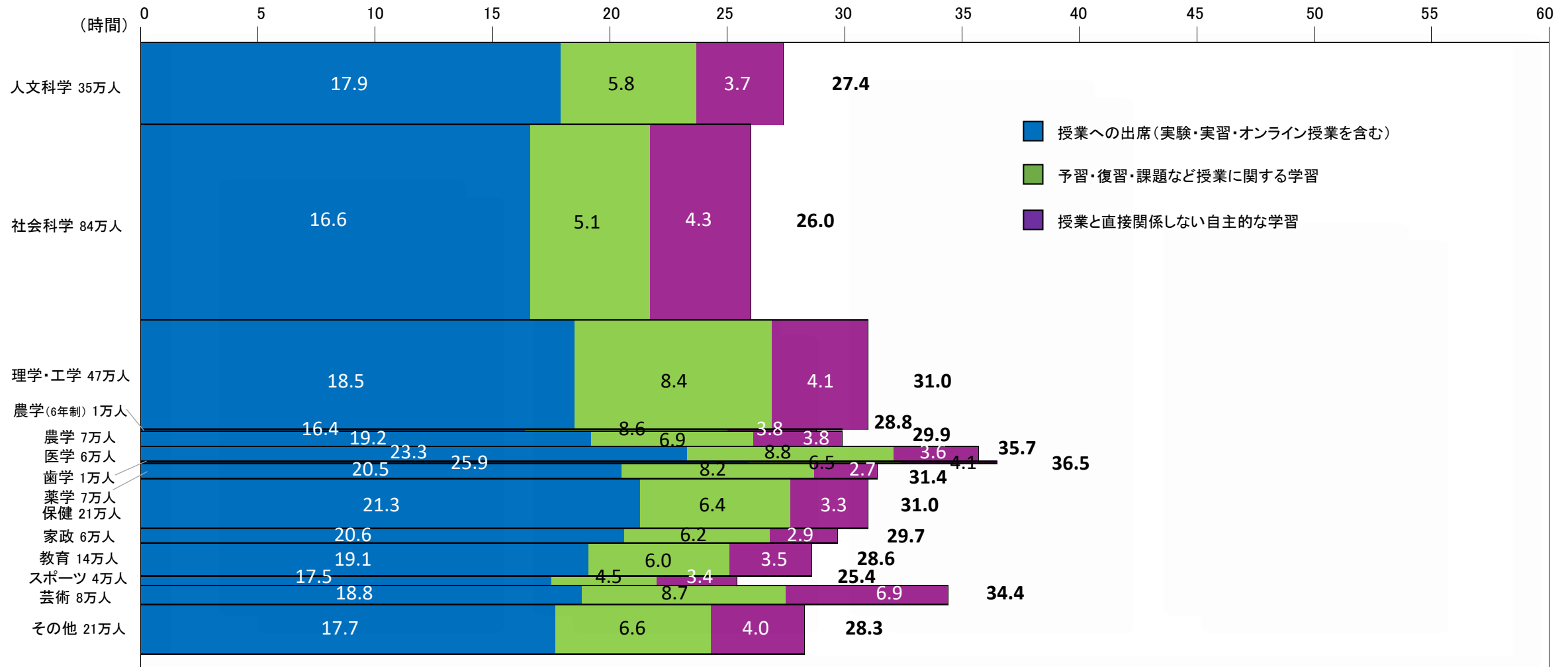


【推計方法】

・調査における各学生の授業、予習・復習、自主学習に使った時間の回答（「0時間」、「1-5時間」、「6-10時間」、「11-15時間」、「16-20時間」、「21-30時間」、「31時間以上」の7つのカテゴリーのいずれかを選択）に中央値（ただし、「0時間」は0、「31時間以上」には33）を割り当て、各学生の学習時間の合計を算出し、「0時間」、「1-10時間」、「11-20時間」等のカテゴリーごとの割合を分野別に算出した。

総学生数 263万人

1週間の学習時間推計（授業、予習・復習、自主学習）【2年生・分野別】



（注）分野別の学部学生数（R6学校基本調査ベース）を近似値として参考掲記。また、その学生数に応じて棒グラフ幅を表示。

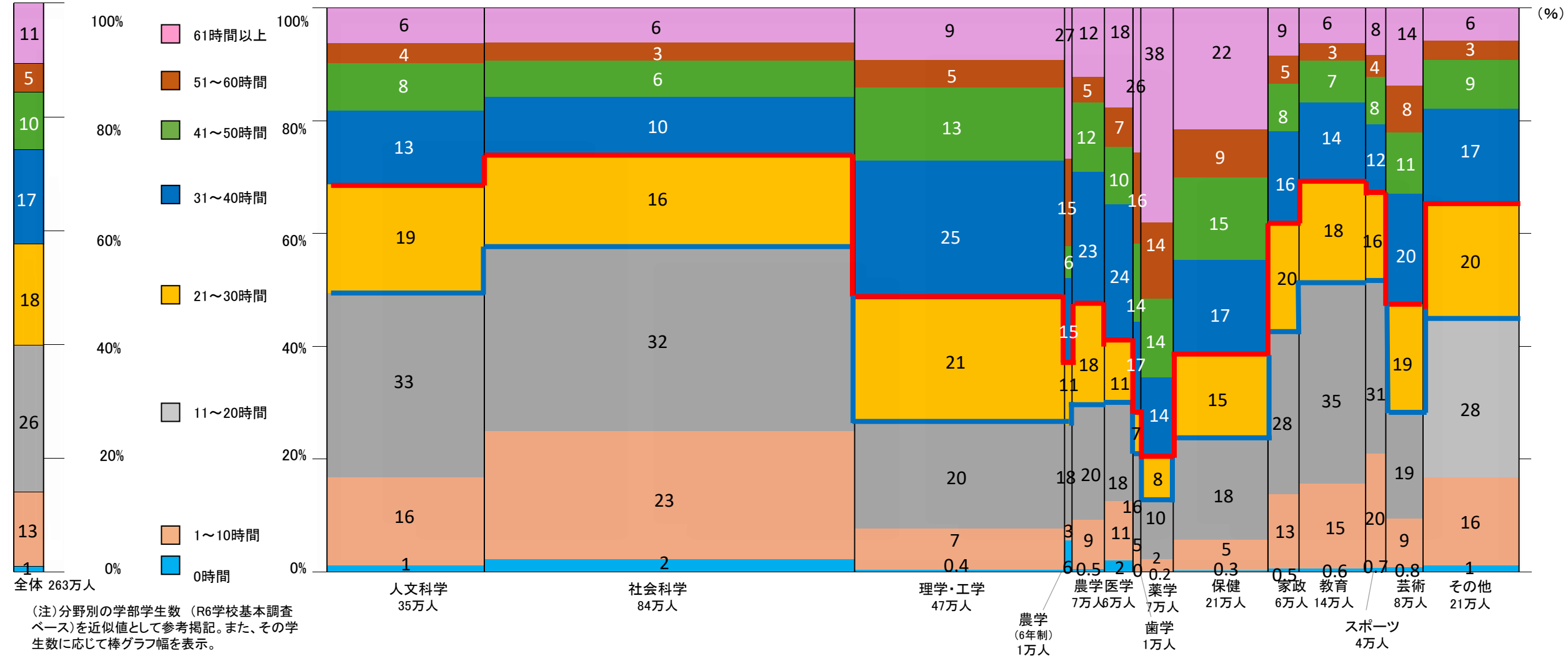
【推計方法】

・調査における各学生の授業、予習・復習、自主学習に使った時間の回答（「0時間」、「1-5 時間」、「6-10 時間」、「11-15 時間」、「16-20 時間」、「21-30 時間」「31 時間以上」の7つのカテゴリーのいずれかを選択）に中央値（ただし、「0時間」には0、「31時間以上」には33）を割り当て、各学習時間の平均値を分野別に算出した。

1週間の学習時間の割合推計（授業、予習・復習、自主学习、卒業論文）【最終学年・分野別】

最終学年の授業期間中の平均的な1週間の学習時間の推計結果として、**理・工、農学、医、薬、保健**の学生の学習時間は比較的長い一方で、**人文、社会**などの学生の学習時間は短い傾向がある。

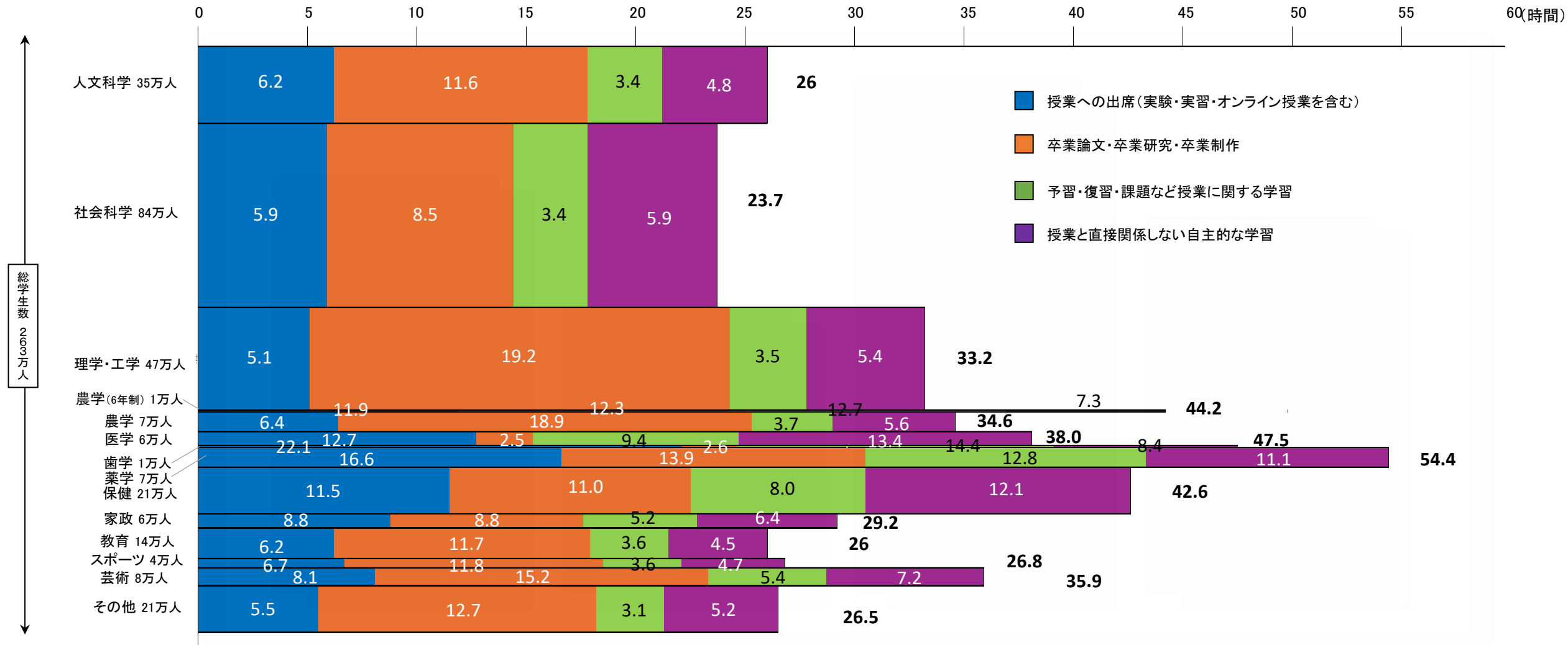
※サンプル数が少ない分野については、言及していない



【推計方法】

・調査における各学生の授業、予習・復習、自主学习、卒業論文に使った時間の回答（「0時間」、「1-5時間」、「6-10時間」、「11-15時間」、「16-20時間」、「21-30時間」、「31時間以上」の7つのカテゴリーのいずれかを選択）に中央値（ただし、「0時間」には0、「31時間以上」には33）を割り当て、各学生の学習時間の合計を算出し、「0時間」、「1-10時間」、「11-20時間」等のカテゴリーごとの割合を分野別に算出した。

1週間の学習時間推計（授業、予習・復習、自主学習、卒業論文）【最終学年・分野別】



(注) 分野別の学部学生数（R6学校基本調査ベース）を近似値として参考掲記。また、その学生数に応じて棒グラフ幅を表示。

【推計方法】

・調査における各学生の授業、予習・復習、自主学習、卒業論文に使った時間の回答(「0時間」、「1-5 時間」、「6-10 時間」、「11-15 時間」、「16-20 時間」、「21-30 時間」「31 時間以上」の7つのカテゴリーのいずれかを選択)に中央値(ただし、「0時間」には0、「31時間以上」には33)を割り当て、各学習時間の平均値を分野別に算出した。

令和6年度「全国学生調査（第4回試行実施）」の結果の公表について

1. 全国学生調査の目的

「全国学生調査」は、「学修者本位の教育への転換」を目指す取組の一環として、全国共通の質問項目により、学生目線から大学教育や学びの実態を把握し、大学の教育改善や国の政策立案など、大学・国の双方において様々な用途に活用することを目的としている。

2. 試行実施の趣旨・目的等

- 本調査は、令和元年度の第1回、令和3年度の第2回、令和4年度の第3回試行実施に引き続き、適切な調査方法や質問項目などを整理・検証するため、試行という位置付けで実施したものである。
- 第4回試行実施においては、第1回、第2回および第3回から以下の点を変更している。

区分	調査対象	調査時期	質問項目数
第1回試行実施	大学3年生	令和元年11月～12月	36問
第2回試行実施	大学2年生、最終学年 短期大学2年生	令和4年2月	60問（コロナ禍を踏まえてオンライン授業に関する質問等を追加）
第3回試行実施	大学2年生、最終学年 短期大学2年生	令和4年11月～令和5年1月	45問（第2回施行実施時に質問数が多いとの意見が多数あったため削減）
第4回試行実施	大学2年生、最終学年 短期大学2年生	令和6年10月～令和7年3月	33問（第3回施行実施時に質問数が多いとの意見が多数あったため削減）

※第3回、第4回は上記調査時期から大学毎に1か月以上の調査期間を設定して実施。

3. 調査方法等

- 参加校が以下の調査方法①、②から選択
 - ①文部科学省が実施するインターネット（WEB）調査（文部科学省が指定するURLに学生が直接回答）
 - ②参加校が実施する学生調査（参加校独自の学生調査の中に本調査の質問項目を設定）

4. 今後のスケジュール等：

- ・令和7年秋頃 本格実施開始予定

令和6年度「全国学生調査（第4回試行実施）」の結果の公表について

令和6年度「全国学生調査（第4回試行実施）」質問項目（選択式33問・自由記述式1問／匿名調査）

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

- 4. 理解がしやすいように教え方が工夫されていた。
- 5. 予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。
- 6. 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。
- 7. グループワークやディスカッションの機会がある。
- 8. 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。
- 9. ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。

問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。

- 10. インターンシップ（5日間以上）
- 11. 海外留学・海外研修（短期も含む）
- 12. 主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか。

- 13. 専門分野に関する知識・理解
- 14. 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観
- 15. 文献・資料を収集・分析する力
- 16. 論理的に文章を書く力
- 17. 人に分かりやすく話す力
- 18. 外国語を使う力
- 19. 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能
- 20. 問題を見つけて解決方法を考える力
- 21. 他者と協働する力
- 22. 幅広い知識、ものの見方
- 23. 異なる文化に関する知識・理解

令和6年度「全国学生調査（第4回試行実施）」の結果の公表について

令和6年度「全国学生調査（第4回試行実施）」質問項目（選択式33問・自由記述式1問 / 匿名調査）＜続き＞

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

- 24. 卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。
- 25. 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。
- 26. 教職員が熱心に教育に取り組んでいる。
- 27. 大学の学びによって成長を実感している。

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

- 28. 授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）
- 29. 卒業論文・卒業研究・卒業制作【最終学年のみ】
- 30. 予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）
- 31. 授業と直接関係しない自主的な学習（学問に関係する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）
- 32. 部活動／サークル活動
- 33. アルバイト／定職
- 34. 本調査や、大学での学びについて意見がありましたら教えてください。（自由記述）【調査方法①のみ】

令和6年度「全国学生調査（第4回試行実施）」の結果の公表について

3. 結果概要：

※第1回試行実施は大学のみを対象とし、参加校は515校（67.4%）、回答率は27.3%

第2回試行実施は大学の参加校は582校（72.5%）、回答率は11.8% 短期大学の参加校は157校（49.8%）、回答率は27.6%

第3回試行実施は大学の参加校は532校（65.9%）、回答率は10.6% 短期大学の参加校は148校（47.9%）、回答率は27.9%

（1）全体の回答状況

対象	対象校数	対象学部数 ※短大においては は学科数	対象学生数 ※短大においては最終学年のみ		有効回答者数 ※短大においては最終学年のみ		回答率
			2年生	4年生以上	2年生	4年生以上	合計
大学 (787校)	540校 (68.6%)	2,324学部	489,378	513,163	69,030	62,277	13.1%
短期大学 (297校)	132校 (44.4%)	248学科	17,647		6,713		38.0%
合計	672校	2,572 学部・学科	1,020,188		138,020		13.5%

＜大学設置者別の回答状況＞ ※学部2年生と4年生以上の合計

区分	対象大学数	対象学部数	対象学生数	有効回答者数	有効回答率
国立 (82大学)	82大学 (100.0%)	504学部	214,891人	32,572人	15.2%
公立 (100大学)	70大学 (70.0%)	206学部	56,920人	8,860人	15.6%
私立 (605大学)	388大学 (64.1%)	1,614学部	730,730人	89,875人	12.3%

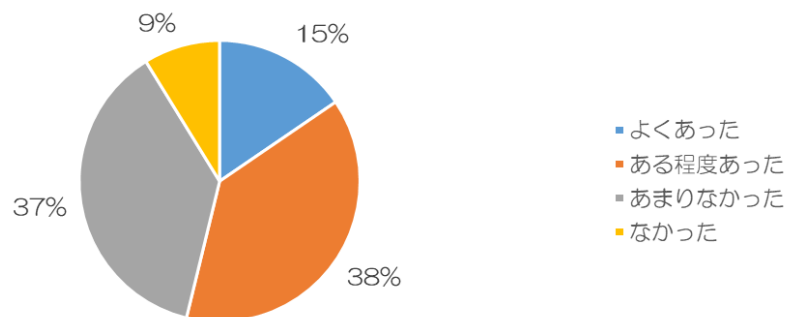
＜短期大学設置者別の回答状況＞

区分	対象大学数	対象学科数	対象学生数	有効回答者数	有効回答率
公立 (15大学)	9校 (60.0%)	22学科	1,676人	399人	23.8%
私立 (282大学)	123校 (43.6%)	226学科	15,971人	6,314人	39.5%

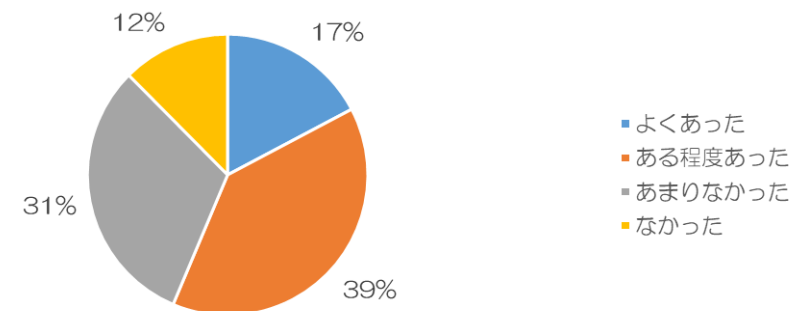
【問 1】大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどれくらいありましたか。【大学】

- 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される（54％）については、「よくあった」、「ある程度あった」という割合が低く、特に設置者別で見た際には私立、公立と比較して国立が低い割合であった。
- ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある（56％）については「よくあった」、「ある程度あった」という割合が半数は超えているが、学生の学習支援による「アクティブ・ラーニング（能動的学習）」の推進等の観点からは、一層の取組が必要である。

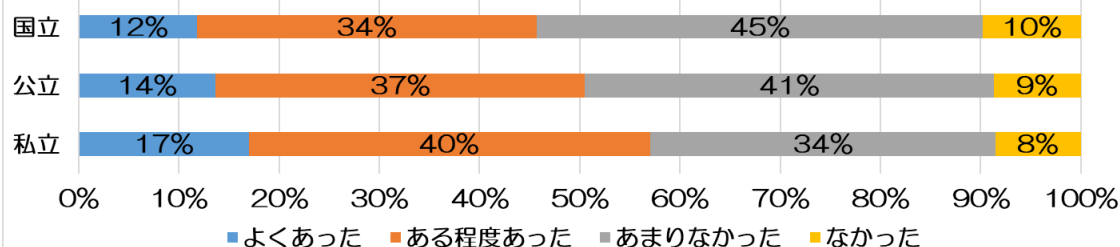
Q6：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。



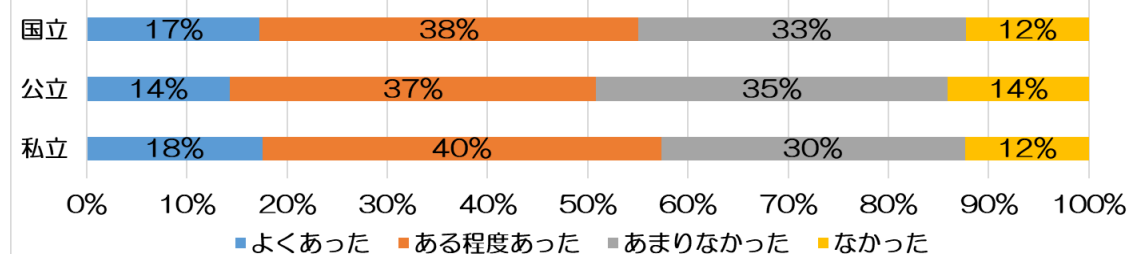
Q9：ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。



Q6：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。



Q9：ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。



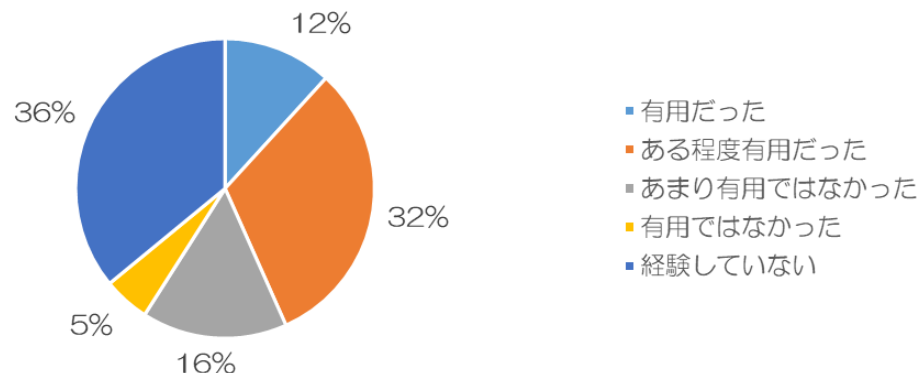
（注）各回答の割合は、小数点第三位で四捨五入した上でパーセント表示しており、複数の回答の割合を合算した数値は、各回答のパーセント表示の和と必ずしも一致しない。以下、同様。

【問2】大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。【大学】

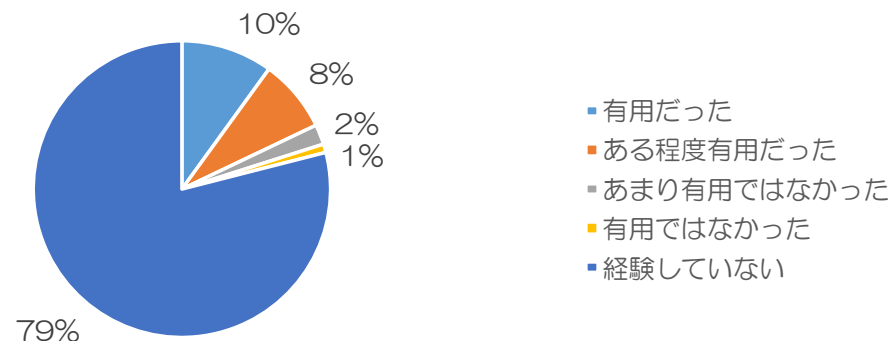
○主に英語で行われる授業の履修（43％）については、6割以上が経験したことがあり、経験したことがある学生の約7割が「有用だった」、「ある程度有用だった」と回答した。

○一方で、インターンシップ（5日間以上）（79％）では、「経験していない」という割合が高かった。

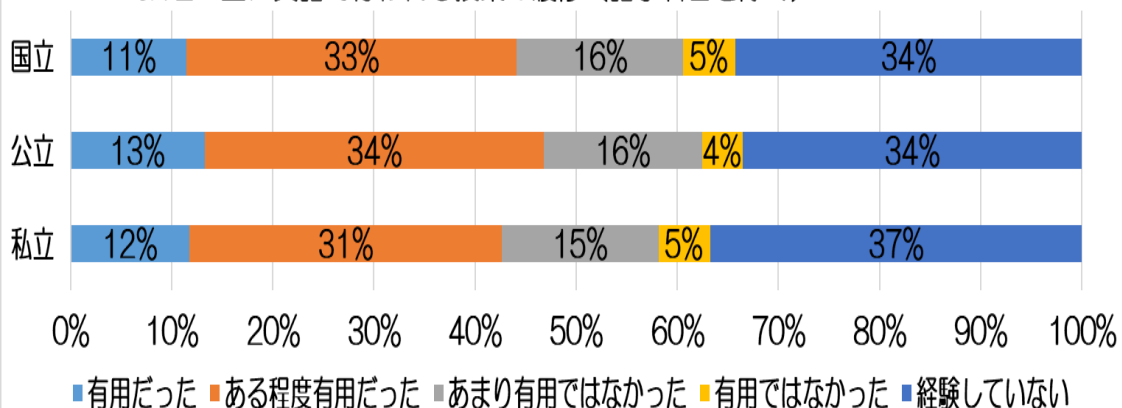
Q12：主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）



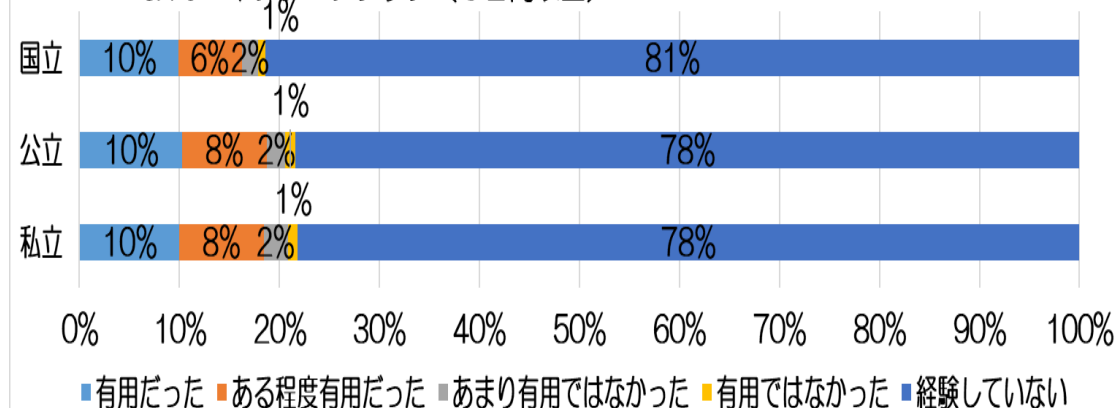
Q10：インターンシップ（5日間以上）



Q12：主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）



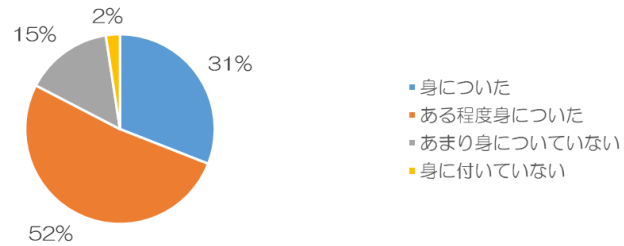
Q10：インターンシップ（5日間以上）



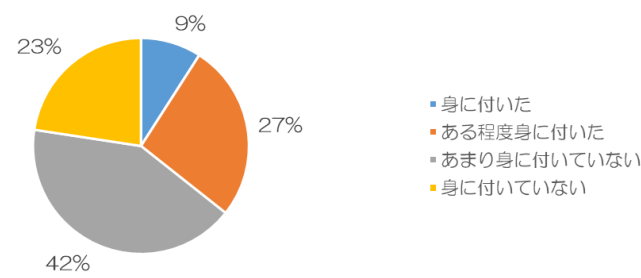
【問3】大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。【大学】

- 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観（83%）について、「身に付いた」、「ある程度身に付いた」という割合が高く、特に設置者別で見た際は、国立、公立と比較して私立が高い割合であった。
- 一方で、外国語を使う力（36%）については割合が低く、数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能（53%）については半数程度であった。数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能については、公立、私立と比較して国立が高い割合であった。

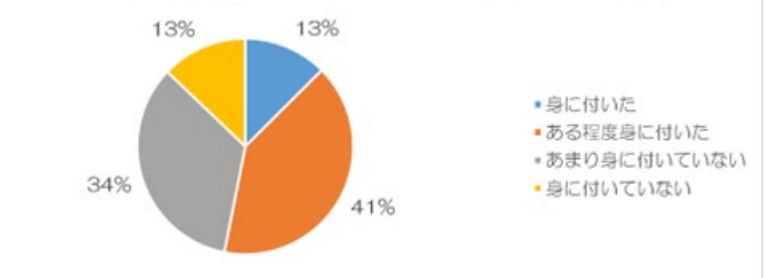
Q14：将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観



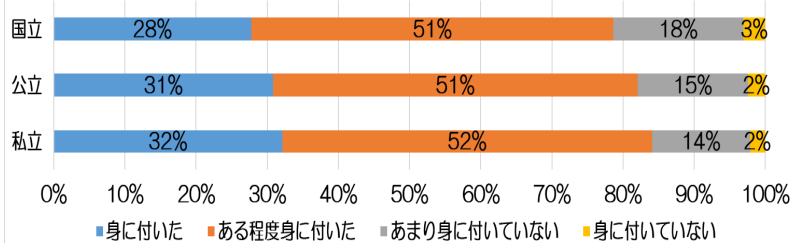
Q18：外国語を使う力



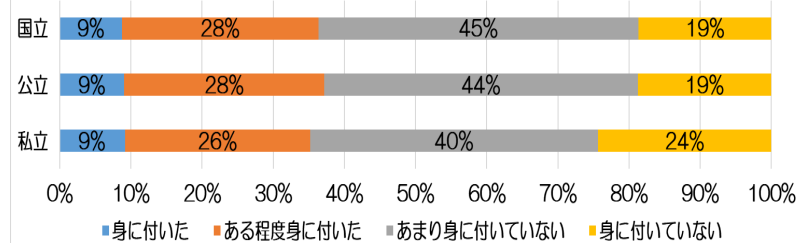
Q19：数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能



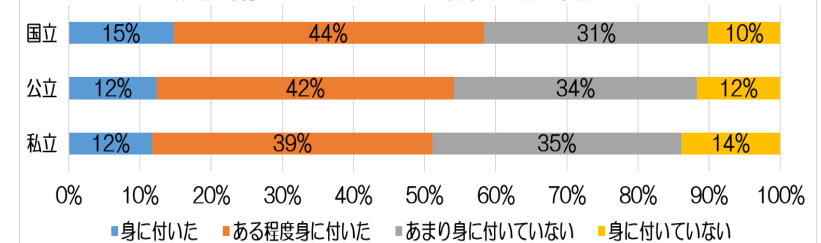
Q14：将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観



Q18：外国語を使う力



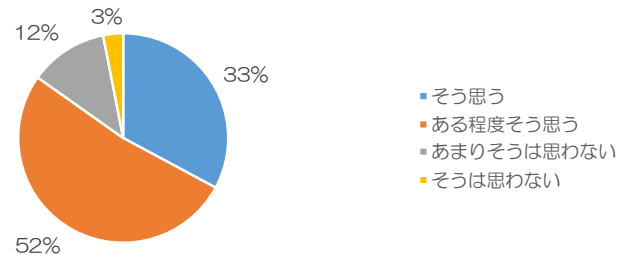
Q19：数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能



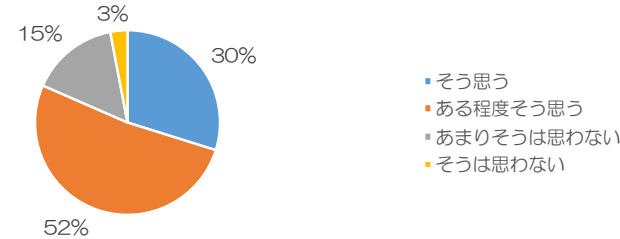
【問 4】これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。【大学】

- 大学での学びによって成長を実感している（85%）、卒業時までに身に付けるべき知識や能力を意識して学修している（82%）等で「そう思う」、「ある程度そう思う」という割合が高かった。
- 一方で、授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている（52%）については半数程度であった。
- 特に設置者別で見た場合は、「卒業時までに身に付けるべき知識や能力を意識して学修している」、「授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている」について、国立、公立と比較して私立が高い割合であった。

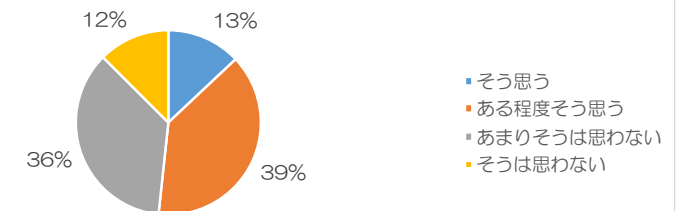
Q27：大学の学びによって成長を実感している。



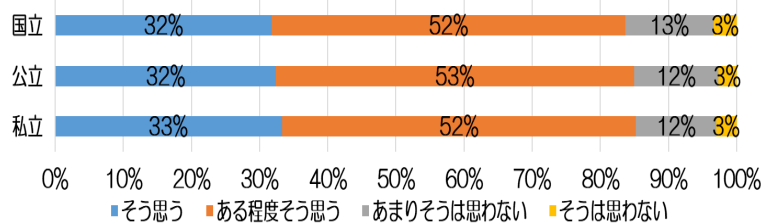
Q24：卒業時までに身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。



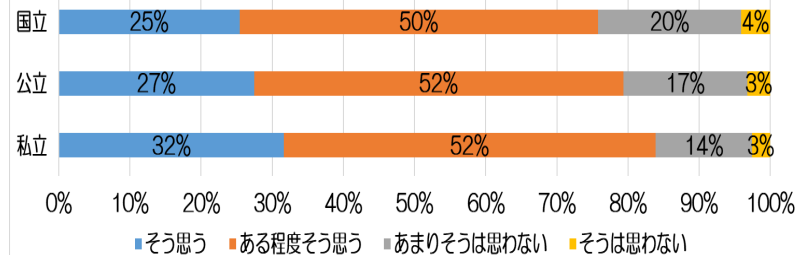
Q25：授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。



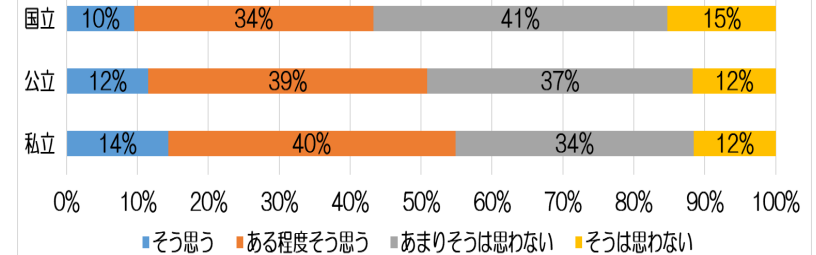
Q27：大学の学びによって成長を実感している。



Q24：卒業時までに身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。



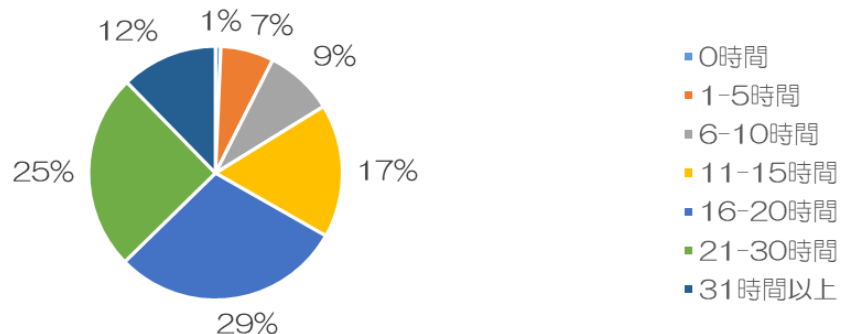
Q25：授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。



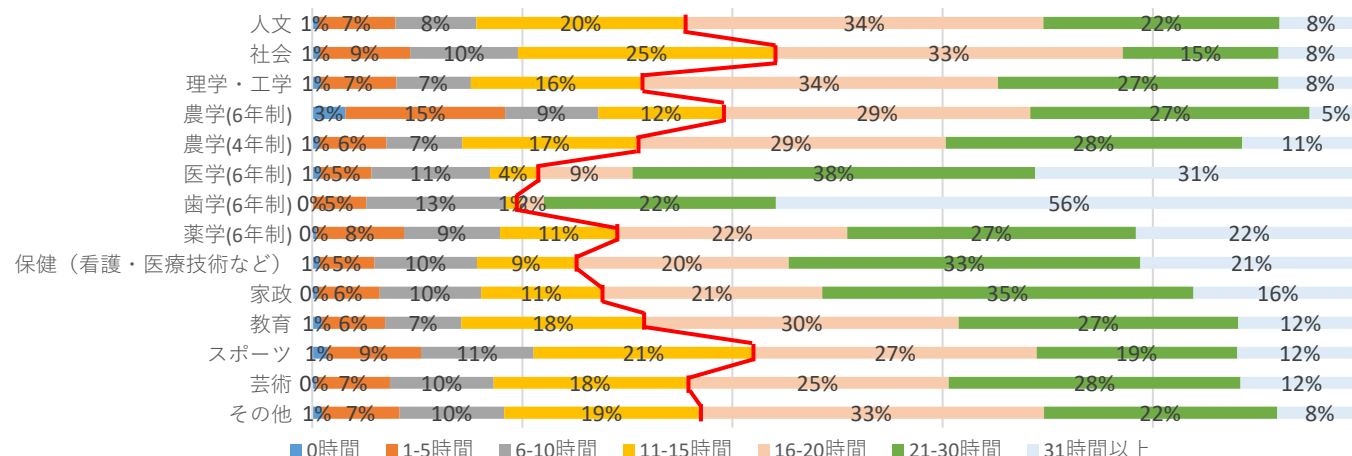
【問5】今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間はそれぞれどのくらいですか。【大学2年生】

- 2年生は**授業への出席**について週16時間以上が67%であるが、**予習・復習等の授業に関する学習**は5時間以下が59%であり、授業に関する学習時間が短いことは課題である。
- 分野別**の状況を見ると、**授業への出席**については16時間以上の割合で見ると医学（6年制）（78%）、保健（74%）等が高い水準。**授業に関する学習**は、5時間以下の割合で見ると社会（72%）等が高い水準。

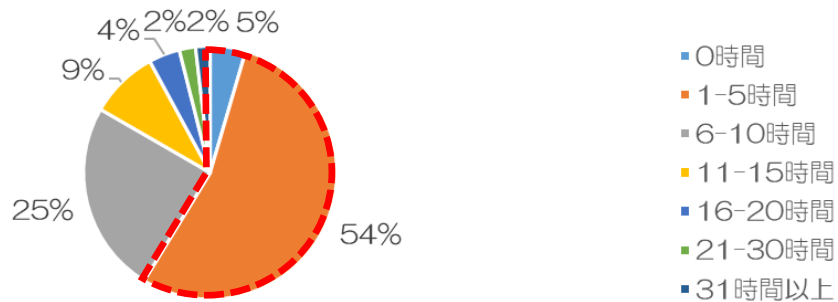
Q28：授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）



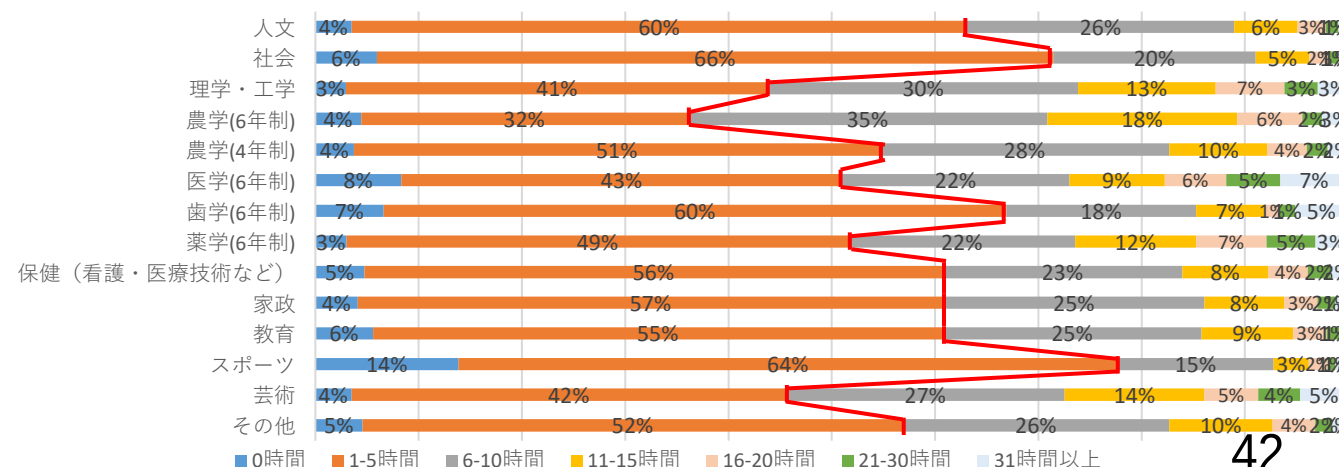
Q28：授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）（2年生）



Q30：予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）



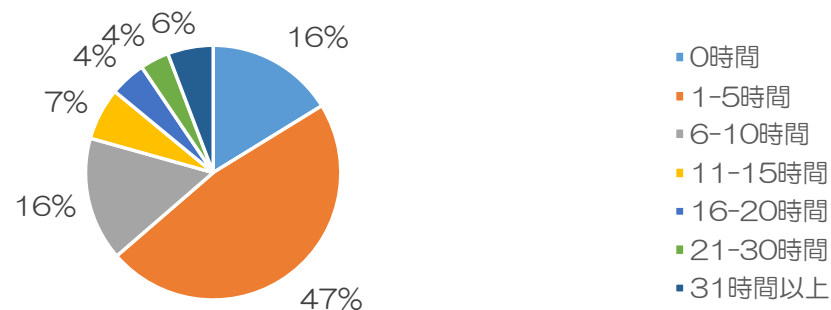
Q30：予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）（2年生）



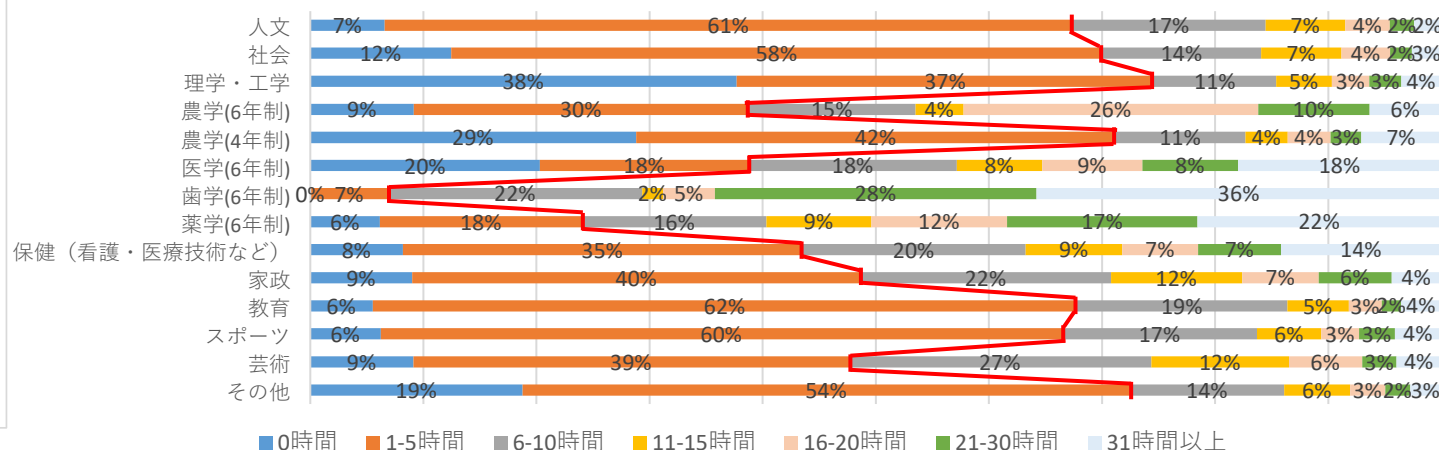
【問5】今年度後期の授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間はそれぞれのくらいですか。【大学4年生以上】

- 4年生以上は**授業への出席**について5時間以下が64%であるが、**授業に関する学習**は5時間以下が79%。
- 分野別**では、**授業への出席**が5時間以下の割合は理学・工学(75%)、農学(4年制)(71%)、社会(70%)、人文(68%)等で高く、薬学(6年制)(24%)等で低い。
- 授業に関する学習**について同様に、5時間以下の割合が人文(86%)社会(84%)、農学(4年制)(83%)、理学・工学(83%)等で高い。

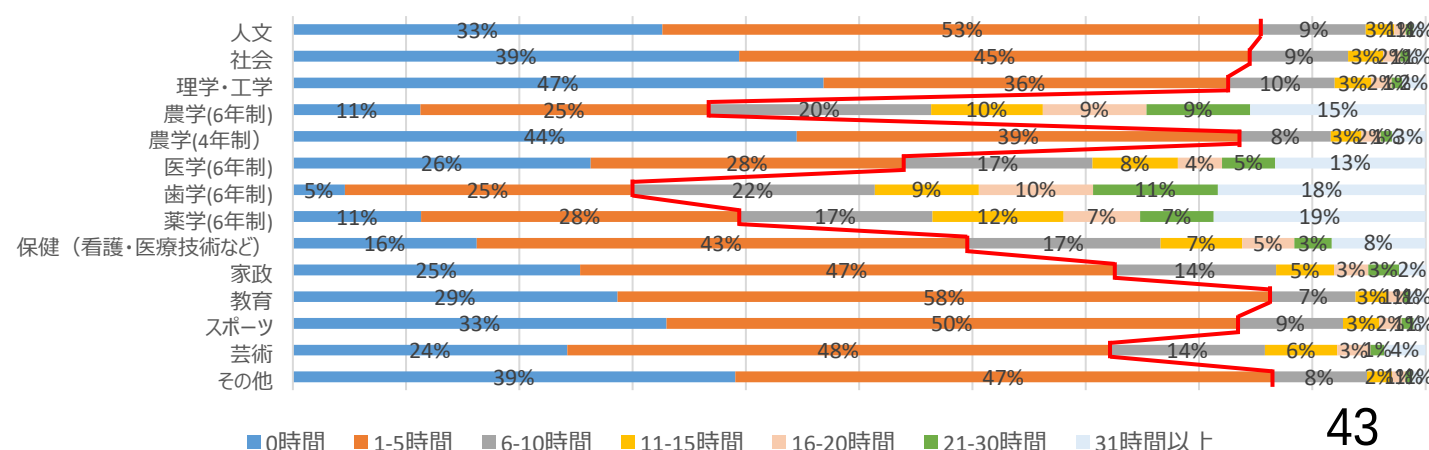
Q28：授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）



Q28：授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）（4年生以上）



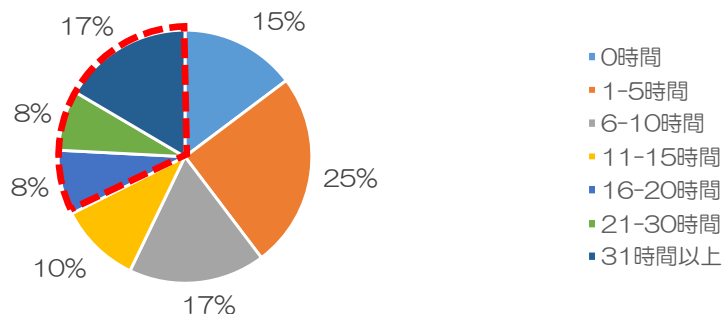
Q30：予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）（4年生以上）



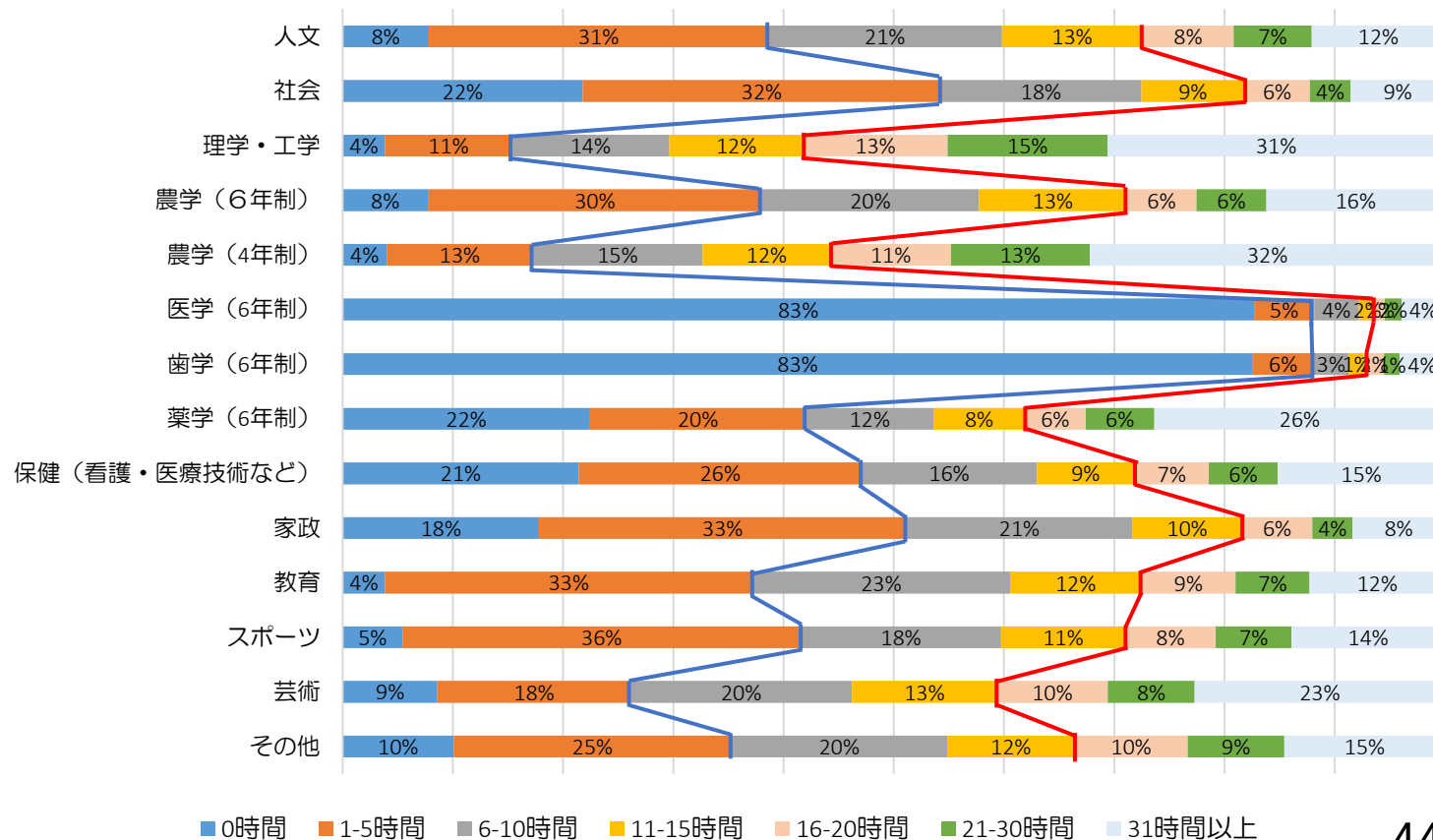
【問 5】今年度後期の授業期間中の平均的な1週間(7 日間)の生活時間はそれぞれのくらいですか。【大学4年生以上】

- 4 年生以上の学生の**卒業論文等に費やす時間**については、1 6 時間以上が 3 2 %となる一方で、卒業論文等に費やす時間が5 時間以下となる学生も 4 0 %存在する。
- 分野による差が大きく、卒業論文等に 1 6 時間以上を費やす割合は理学・工学（ 5 9 %）、農学（ 4 年制）（ 5 6 %）で高く、5 時間以下となる割合は医学（ 6 年制）（ 8 8 %）等で非常に高いほか、社会（ 5 4 %）等においても相当程度の割合に上る。

Q29：卒業論文・卒業研究・卒業制作（第2学年を除く）

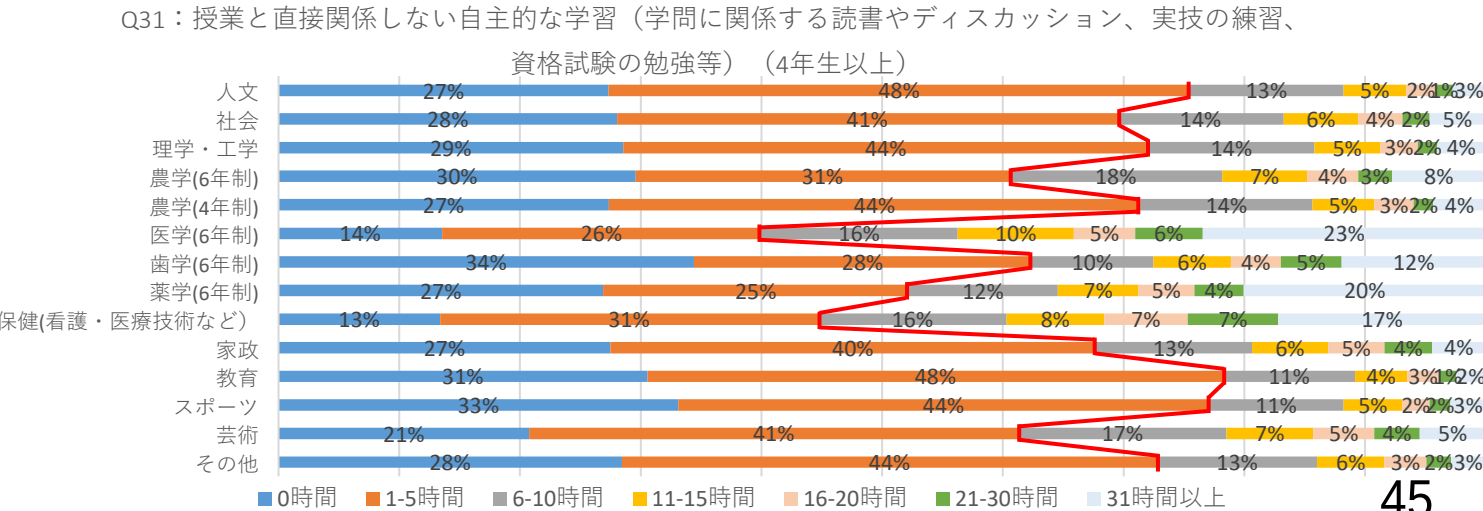
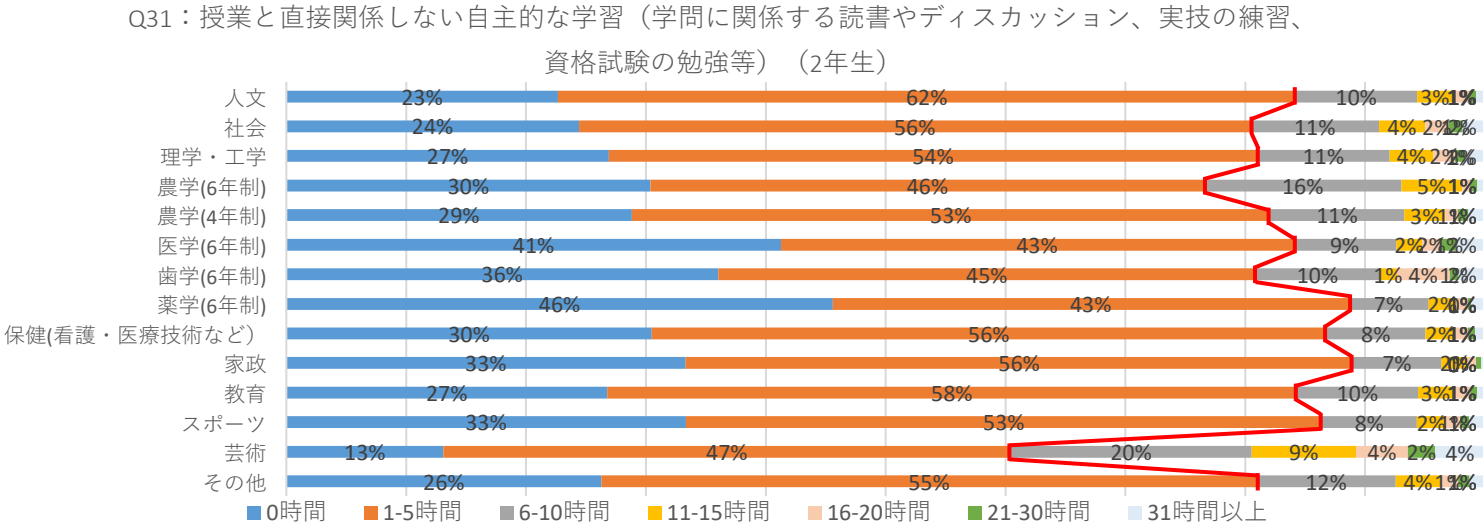
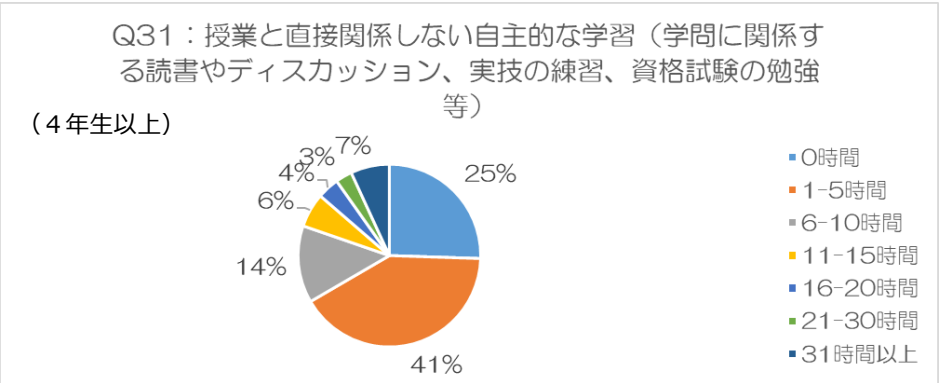
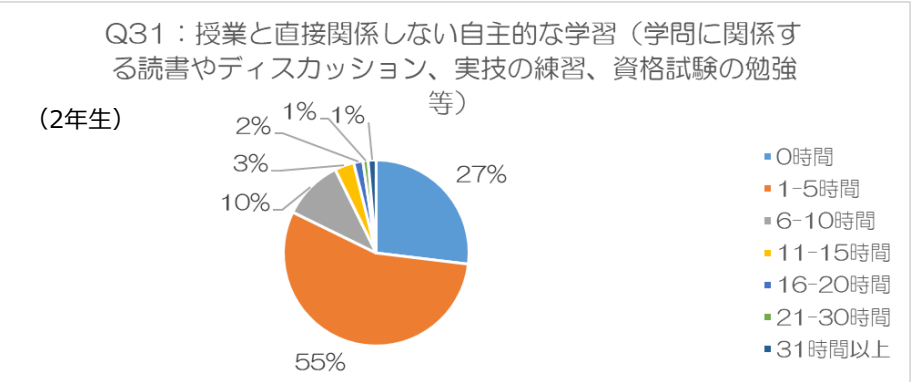


Q29：卒業論文・卒業研究・卒業制作（第2学年を除く）



【問5】今年度後期の授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間はそれぞれどのくらいですか。【大学】

- 2年生では、**授業の予習・復習・課題以外の自主的な学習（学問に関する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）**については、82%が5時間以下であり、芸術を除き、分野による大きな違いは見られない。
- 最終学年では66%が5時間以下であったが、**分野別**を見ると、教育（79%）、人文（75%）等でその割合が高く、医学（6年制）（40%）、保健（44%）等で低かった。医学、薬学、保健においては、31時間以上が2割前後存在する。



主な調査結果の概要 【短期大学】

- 短期大学については、概ね大学と同様の傾向が見られたが、**大学と比較して、全体として、短期大学の教育活動、短期大学での学びに対する肯定的な回答の割合が高い傾向**にあった。
- 問 1 関係では、【Q6】「課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される」に関する「よくあった」「ある程度あった」は計 72% であり、大学より 18% 高かったほか、【Q7】「グループワークやディスカッションの機会がある」は計 91% であり、大学より 12% 高かった。
- 問 2 関係では、【Q10】インターンシップ（5 日間以上）を経験したことがある学生が 36%（大学 21%）と高い割合を示し、経験した学生のうち、88%（大学 85%）が肯定的な回答（有用だった、ある程度有用だった）であった。
- 問 3 関係では、【Q14】「将来の仕事につながるような知識・技能」が「身に付いた」「ある程度身に付いた」が計 95%（大学 83%）であり、職業教育の成果が評価されていると捉えることができる。
- 問 4 関係でも、全体として、**短期大学の学生は、自らの成長や身に付けた知識・技能について、大学の学生と比較してより肯定的に評価している**ことが明らかになった。また、【Q25】「授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている」では「そう思う」または「ある程度そう思う」と回答した割合は 72% と大学よりも 20% 高く、大学と比較してより学生の意見を踏まえた教学の改善を学生が実感できていることが見てとれる。
- 問 5 関係では、【Q30】「予習・復習・課題など授業に関する学習」が 5 時間以下の学生の割合が 76% であり、【Q31】「授業と直接関係しない自主的な学習（学問に関係する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）」では 5 時間以下が 80% を占め、**予習・復習・課題など授業に関する学習時間の短さは大学と同様に課題**であると言える。

これまでの試行実施調査結果との比較について

○同一の質問項目について回答割合を比較したところ、以下の質問項目について「よくあった」「ある程度あった」、「有用だった」「ある程度有用だった」の割合が第2回（令和3年度）、第3回（令和4年度）試行実施よりも高くなった。

「大学」

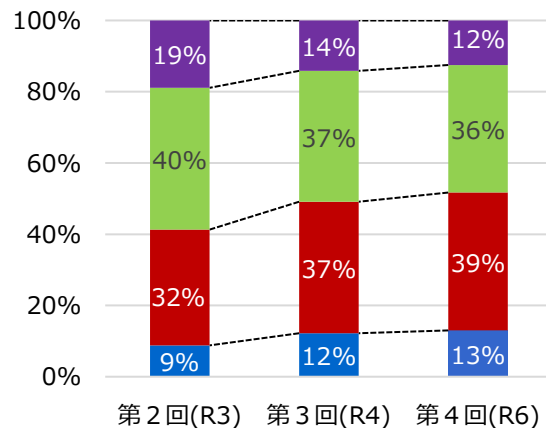
- ・Q7 グループワークやディスカッションの機会がある（令和3年度 65%→ 令和4年度 74%→ 令和6年度 79%）
- ・Q14 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観（令和3年度 76%→ 令和4年度 80%→ 令和6年度 83%）（注1）
- ・Q25 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている（令和3年度 41%→ 令和4年度 49%→ 令和6年度 52%）
- ・Q27 大学での学びによって成長を実感している（令和3年度 78%→ 令和4年度 82%→ 令和6年度 85%）（注2）

（注1）第2回、第3回の設問は「将来の仕事につながるような知識・技能」、第4回の設問は「将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観」。
（注2）第2回、第3回の設問は「大学での学びによって自分自身の成長を実感している」、第4回の設問は「大学での学びによって成長を実感している」。

「短期大学」

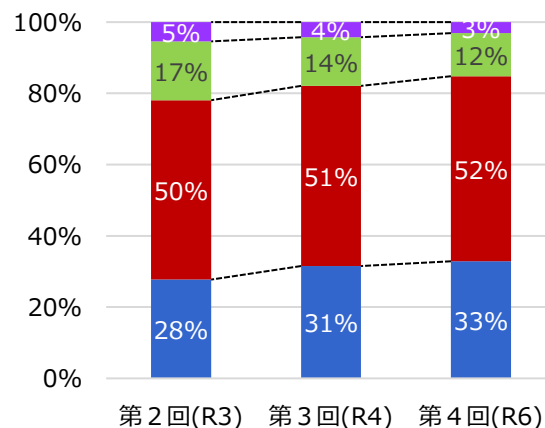
- ・Q6 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される（令和3年度 66%→ 令和4年度 69%→ 令和6年度 72%）
- ・Q7 グループワークやディスカッションの機会がある。（令和3年度 73%→ 令和4年度 87%→ 令和6年度 91%）
- ・Q25 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている（令和3年度 58%→ 令和4年度 64%→ 令和6年度 72%）

「大学」 Q25：授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。



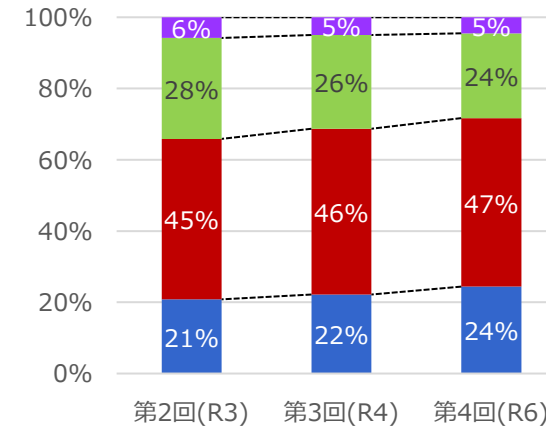
■ そう思う ■ ある程度そう思う
■ あまりそうは思わない ■ そう思わない

Q27：大学の学びによって成長を実感している。



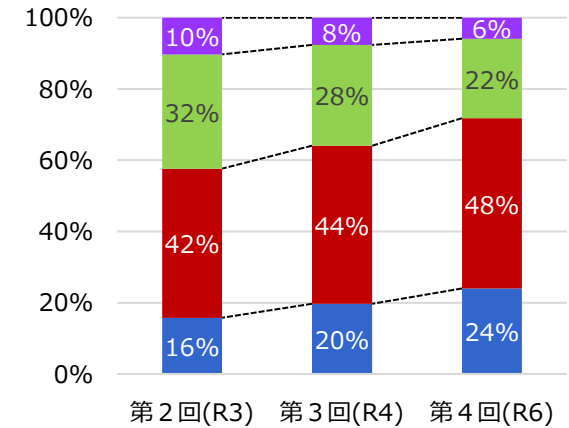
■ そう思う ■ ある程度そう思う
■ あまりそうは思わない ■ そう思わない

「短期大学」 Q6：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。



■ よくあった ■ ある程度あった
■ あまりなかった ■ なかった

Q25：授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。



■ そう思う ■ ある程度そう思う
■ あまりそうは思わない ■ そう思わない